

婦人関係資料シリーズ  
調査資料NO.23

# 主婦の生活と意見

実態調査結果報告書

労働省婦人少年局

## は し が き

婦人少年局では、婦人の生活実態を明らかにするために、これまで農・山・漁村や都市労働者世帯の婦人を対象とする調査をはじめ種々の調査を実施してきましたが、このたびは主婦を対象として、家庭生活を中心としての主婦の暮らし方と考え方をみるために調査を行いました。この調査ではとくに大・中都市及び農・漁村における主婦の生活と意見の相違をみる目的から典型的な4地点を調査地として選びました。

この調査は企画の当初から統計数理研究所（国立）西平重喜、釣谷純子、石川温子諸氏の御協力のもとにすすめられ、又調査結果の分析はこの方々に御執筆いただきました。ここに報告書を発刊するにあたって、これらの方々に厚く御礼申し上げます。

なお、この調査の実施後、最高裁判所家庭裁判所調査官研修所で統計数理研究所の協力のもとに、夫婦の間に不和のある家庭の主婦を対象とする同様な調査が企画され、婦人少年局はこの調査に同じ質問を使うことを承諾しました。この調査の結果がこのほど西平氏のもとでとりまとめられましたが、一般家庭とこの種の問題をもつた家庭とを比較する際の参考となると思われるので、家庭裁判所調査官研修所の承諾をえて、この調査の結果もあわせて巻末に収録しました。

昭和32年12月

労働省婦人少年局

# 主婦の生活と意見

## 実態調査結果報告

### 目次

#### はしがき

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第1章 調査の概要       | 1  |
| 第2章 調査の結果       | 3  |
| 第1項 調査結果の概要     | 3  |
| 第2項 主婦の実態       | 5  |
| 第3項 主婦と職業       | 10 |
| 第4項 夫との関係       | 13 |
| 第5項 家の経済        | 17 |
| 第6項 主婦個人の生活について | 25 |
| 第7項 男女の区別について   | 31 |
| 第8項 社会的関係       | 34 |
| 附 録             |    |
| 夫婦間に不和のある主婦の調査  | 39 |

## 第1章 調査の概要

**調査の目的及び地点の選定：** この調査は主婦の生活と意見の実態が大・中都市及び農・漁村でどのように異っているかをみることを目的としたのであるが、予算の制約もあつて大規模な調査が困難であつたので、全国とか関東地方全体での推定ができるように地点をとる、ということより、典型的な地点をえらんで、比較をすることにした。このため、以下のようにして調査地点を選定した。

東京都の区政施行地域をとり、ほかに中小都市、農村、漁村を1地点ずつとることにした。

中小都市を選ぶに当つては、関東地方の中小都市について、女の人口、14歳以上の就業者数(女)、産業別人口及びそれらの合計をしらべ、各産業についての比率(14歳以上の就業者数に対する各産業別人口)を求め、この産業構成の平均に近い市として神奈川県藤沢市を選んだ。

農村も同様にして、産業構成の平均に近い村を山梨県の郡部から選び、中巨摩郡田舎村とした。

漁村としては茨城県から沿海町村の産業構成の平均に近く漁業率の割合に高いものとして、那珂湊市の旧平磯町地区を選んだ。

これらの地点は、各グループを代表するものとして、その産業構成の平均的なもの、もしくはその特色をはつきり示しているものとして選ばれているのである。

**調査の対象者：** 夫が現存している婦人、合計1040名を地域別に下表のように住民票より抽出した。なお、東京都は町(丁目)を単位に層別をし、第1次に人口比例確率抽出法により町(丁目)を抽出して、これを調査地域とした。そうして各調査地域から、サンプルを抽出した。すなわち、2段階別サンプリングである。

他の市町村は範囲もせまいので層別はおこなわず、全地域から等間隔サンプリングでサンプルを抽出した。すなわち一段サンプリングである。

サンプル数の割当及び回収状況は次の通りである。

|                  |   | サ   ン   プ   ル   数 | 回   収   数 | 回   収   率 |
|------------------|---|-------------------|-----------|-----------|
| 東<br>藤<br>田<br>平 | 京 | 650               | 587       | 90%       |
|                  | 沢 | 130               | 116       | 89        |
|                  | 宮 | 130               | 127       | 98        |
|                  | 磯 | 130               | 114       | 88        |
| 計                |   | 1,040             | 944       |           |

集計は回収されたサンプルについて各地点毎に行つた。そうして項目相互間のクロス集計は東京のみで行つた。これらの4地点の合計を出して全体の平均とみなすことは、そのサンプル数の割当の基礎が必ずしも正しくない。

なお、この調査と、昭和30年度国勢調査における東京都23区の子有配偶者の年齢の結果とを比較して

みるとつぎのようになる。

|              | 20~29 | 30~39 | 40~49 | 50~59 | 60~ | 計   |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 東 京          | 17    | 37    | 28    | 13    | 5   | 100 |
| 30 年 国 勢 調 査 | 25    | 34    | 23    | 13    | 5   | 100 |

30歳以上においてはほぼ同じであるが、20歳台は、国勢調査より、この調査の方が少かった。

調査期日：昭和31年11月下旬～12月上旬

調査項目：調査項目は全部で42問であるが、これを大きく分けると、つぎのようになる。

主婦の実態

主婦と職業

夫との関係

家の経済

主婦個人の生活

男女の区別

社会的関係

調査方法：面接調査法即ちサンプル名簿に指定された本人に直接に面接し、本人の答を聞き取り、その結果を正確に調査票に記入して来る方法である。そのため調査に先だつて、この調査の方法についての説明のため、東京を受持つ調査員、地方の調査に当る責任者、又この調査の直接関係者が集つて、説明会を行つた。なお、調査の実施にあつたのは、婦人少年局婦人課職員、各都県の婦人少年室職員及び臨時調査員である。

報告書について：この報告書では、調査の概要を第1章とし、調査結果の概要及び各項目についての結果を第2章とした。なお、調査の結果に対する解釈は読む方々に任せるべきものと考えて、ここで概あえて解釈を加えず、結果を報告するにとどめた。

## 第2章 調査の結果

ここではまず始めに、調査結果の概要をのべたのち、各項目の結果を項を追つてくわしく検討することにする。その順序は概要でのべる順序にしたがつて、主婦の実態（第2項）、主婦と職業（第3項）、夫との関係（第4項）、家の経済（第5項）、主婦の個人生活（第6項）、男女の区別（第7項）、社会的関係（第8項）の順とする。

### 第1項 調査結果の概要

1) 主婦の実態：世帯主の妻が大多数をしめている。すなわち、同居者の妻は少ない。年齢別では30歳台、40歳台が全主婦の半分以上をしめる。目上の同居家族のうち、一番多いのは夫の母であるが、東京で11%、漁村の平磯で29%である。学歴は東京では旧制中等学校が一番多く（35%）、つぎは高等小学校・新制中学（31%）、小学校卒業以下（23%）、専門学校・大学（7%）である。藤沢もこれに近く、他の2村では、高小・新中以下が80%に達している。本人の職業は無職が東京、藤沢で70%に近い。農村の田舎では35%、平磯は54%である。夫の職業、夫の学歴については第2項にゆずる。

2) 主婦と職業：主婦と職業との関係をまとめてみると、農村である田舎だけがやや傾向をことにするが——その田舎といえども、全く逆の傾向とはいえない——、主婦の半分以上が無職であり、半分近くは結婚前も無職であつた。しかし、最近（若い層）は結婚前は職につくものがふえる傾向がある。そして、現在無職のものうち仕事をしたいと思うものは半分に満たない。しかも、女が仕事をするこゝと、子供が生まれてからも事情がゆるせば仕事をつづけてよいか、というようなこと——後述のとおり、質問にゆがみがかけてあるが——に対しては、女が職業につくことに否定的な態度を示すものが約半分で、肯定的のものは約1/4にすぎない。しかも、これらの態度は主婦の年齢、学歴、職業などや立場と関係なくいえることである。

3) 夫との関係：恋愛結婚は東京、藤沢で約25%、2村では10%台で、若いもの、高学歴のものが多い。夫がなにか家事を手伝うものは都市の方が多く、若く、学歴が高いほど家事を手伝っている。同伴での外出は都市の方が村より多く、若く、学歴が高いほど出かけることが多い。ラジオの番組は、夫のききたい番組をかけるものが多く、どのカテゴリでも差はない。夫の家事評価は、十分みとめてくれるというものが約半分で、他の項目のカテゴリによる差はほとんどない。

4) 家の経済：まず地点の間の比較をすれば、収入は漁村の平磯が低い、くらしむきが苦しいというものは東京に多い。漁村の田舎は、本人が家計担当者であることが少なく、予算を立てるものが少なく、収入全額をうけとるものも少なく、財産を知っているものも少ない。漁村の平磯は、予算を立てるものが少なく、家計簿をつけないものが多い。いま家計簿はつけ、予算はたて、収入全額をうけとり、財産をよく知っているものを、かりに“進歩的”とよぶことにすれば、たしかに東京、藤沢は田舎、平磯より“進歩的”といふことができる。

そして、年齢は若いほうが“進歩的”で、学歴は高いほうが“進歩的”であり、夫が専業的職業の

場合は、他の場合より“進歩的”でない。本人が自分のうちの店で働いているときも、他より“進歩的”でない。すなわち、販売業に従事している場合は、家の経済も主婦以外がおこなうことが多い。

5) 主婦個人の生活：自分の学歴で十分とか仕方がないと思つてゐるものは、約半分である。市部では高専、大学までを希望するものもあるが、村では少ない。しかし他の調査の男の場合とくらべると、満足度は同じであるが、希望する学歴は低い。そうして本人の学歴別とからみあわせてみると、女は新制高校(旧制中等学校)の学歴までを希望していることがよくわかる。“おけいこ”や勉強をしているものは市部でも15%位にすぎないが、村ではもつと少ない。(その内容は、いわゆる“おけいこ”が一番多く(10%)、実用をかねたことがこれにつぎ、教養はごく少ない。)しかし、家事だけで満足かどうかを尋ねると、半分以上の主婦が、ほかに何かしたいと答えているが、若く、学歴の高いものほど、それが多い。したいことの内容は、上にのべた現にしていることとはちがい、実用をかねたことが一番多く、つぎが“おけいこ”と、教養、社会的活動である。家事以外の事をしてゐるか否かでは、しているものは約1/4で、したくてもやれない人が半分以上である。やれない理由の主なもの、多忙、子供、経済的余裕、体が弱いなどである。

自由に使える小遣を持つてゐる主婦は半分たらずであり、50歳以上と、学歴の低い主婦は持つてゐるものはとくに少ない。雑誌や本を買うものは、市部では約60%である。そうして、若く学歴が高いほどよく買う。

日々のくらしに楽しいことがある、というものは市部では60~70%位で、農村の田舎は約80%であるが、漁村の平磯は約50%にすぎない。そうして、若く学歴の高いものほど、楽しみがあるというものが多し。生活に満足しているというものは、約70%で、不満は20~30%である。不満な理由としては、経済的問題が圧倒的であり、つぎは主人についての苦情、以下ひまがない、子供についての気づかいなどである。満足度は年令、学歴などとは関係がない。そうして、他の質問でいわゆる夫婦仲のよいといえるようなものほど、満足度が高く、経済的にもめぐまれているものほど満足度が高い。

全般的にみて、若くて、学歴の高いものほど、積極的であり、また自由がきく傾向が見られる。

6) 男女の区別：男女の区別については、男の子供と女の子供に同じ学歴を望むものと、男の方に高い学歴を望むものが同じくらいであり、男の子には家事を手伝わせる必要がないというものも、そうとうに多い。男女共学反対、女入禁制の山へ女が登るのは“悪い”という意見のものも大分ある。すなわち、女は男より悪い条件でもしかたがない、とするものが、あるていど存在している。そうして、女は苦しく、男は楽しいものと考えてゐるものが多い。しかし、年令の若いもの、学歴の高いもの、夫の職業がいづゆるホワイトカラーでは、男女平等の意識が強い。

7) 社会的関係：結婚後、親と別居すべきだというのが市部では半分以上あるが、村では逆に同居すべきだというのが半分以上である。そうして若く、学歴が高いほど別居すべきだというのが多い。考えかたから親と子供の世代のどちらに近いかという問では、子供の世代に近いというのが半分に近く、親の代、親子の中間というものが約1/4づつある。家族と世の中の問題について話しあうものは半

分に近い。これに対して、家族の問題について話しあうものは約3/4である。

団体の役員や公職についてゐるものは20%に満たない。そうして、公職についてゐる人々は、年令別では40歳台が一番多い。その種類はP. T. A. 関係が断然多い。会合へ出席するものは市部と漁村の平磯は半分以上だが、農村の田舎は多い。そうして、出席する人は楽しみと思うものが多い。とくに村ではその傾向が強い。もし役員にえらばれたら、夫や子供につごうをつけてもらつても引き受けるべきだ、というものが70%近くあり、夫や子供にめいわくをかけるから、断わるべきだ、というものはこれよりずっと少ない。

ここでも、全般的にみて、若く学歴の高いものが進歩的な意見を示すが、一方現実に社会的に活動してゐるものは、中年層の主婦であることは、注目されることであろう。

以下、各項目ごとにくわしく検討してゆこう。

## 第2項 主婦の実態

まず、各個人の家庭内での地位(問1)、年令(問2)、同居家族(問3)、職業(問4)、学歴(問10a)および夫の職業(問11)、夫の学歴(問12)といった基礎的な項目について、サンプルを分析しておこう。これらの項目についてはすでにいろいろの調査で分析されているので、ここでは以後の項の分析に必要なていどにとどめよう。

### 1\* 地 位

\* この番号は質問の番号である。以下同じ。

あなたは世帯主のなににあたりますか？

1. 妻      2. 長男の妻      3. その他(記入)

|     | 世帯主の妻 | 長男の妻 | そ の 他 | 計         |
|-----|-------|------|-------|-----------|
| 東 京 | 98    | 2    | 0     | 100 (687) |
| 藤 沢 | 94    | 5    | 1     | 100 (116) |
| 田 富 | 85    | 6    | 9     | 100 (127) |
| 平 磯 | 90    | 8    | 2     | 100 (114) |

(注) ( ) 内は100%に当るサンプル数。以下、東京、藤沢、田富、平磯では、とくにことわらない限り、このサンプル数に対する%である。なお、0は0.5%未満、一は1人もいないことを示す。

どこでも、“世帯主の妻”が90%内外に達している。田富(農村)では都市にくらべてやや少ないが、これは農村では大家族であるからであろう。

東京についてサンプルの年齢別にみると、若い方に“長男の妻”が多い傾向があるが、一番多い20歳台でも6%にすぎない。

### 2. 年 令

あなたのおうまは、いつですか？

明治、大正、昭和     年  月  日



|     | 20才台 | 30才台 | 40才台 | 50才台 | 60才以上 | 不明 | 計   |
|-----|------|------|------|------|-------|----|-----|
| 東京国 | 25   | 34   | 23   | 13   | 5     | —  | 100 |
| 東京  | 17   | 37   | 28   | 13   | 5     | —  | 100 |
| 藤沢  | 14   | 41   | 30   | 13   | 1     | 1  | 100 |
| 田富  | 11   | 29   | 33   | 17   | 10    | —  | 100 |
| 平磯  | 24   | 31   | 20   | 17   | 8     | —  | 100 |

東京国調というのは1955年国勢調査、東京都の区部、女の有配偶者数の年齢構成である。

まず、東京のデータについて国勢調査とくらべると、20歳台がやや少ないが、他はだいたいよく一致している。すなわち、この調査のサンプルはやや中年の主婦の方にかたよった傾向があるが、それを気にするほどではない。

以下の分析のためには、どの地域でも30歳台の主婦が30~40%、40歳台が30%前後をしめており、60歳以上は10%以下であることを注意しておこう。

### 3. 同居家族

- a) あなたのお父さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いつしよにくらしていらつしやいますか？
- b) あなたのお母さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いつしよにくらしていらつしやいますか？
- c) あなたの御主人のお父さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いつしよにくらしていらつしやいますか？
- d) あなたの御主人のお母さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いつしよにくらしていらつしやいますか？
- e) あなたの御主人にお兄さん、お兄さんのお嫁さん、あるいはお姉さんや、お姉さんのお婿さんがありますか？ そのうちいつしよにくらしている方がありますか？
- f) あなたの御主人に弟さんや妹さんがいますか？ そのうちいつしよにくらしている方がいますか？
- g) そのほか、あなたより年上の方でいつしよにくらしている方がいますか？ その方はあなたの何にあたりますか？
- h) お子さんはおありですか？

- |          |               |         |          |
|----------|---------------|---------|----------|
| a) 本人の父  | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| b) 本人の母  | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| c) 夫の父   | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| d) 夫の母   | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| e) 夫の兄弟  | 1. なし         | 2. 全部別居 | 3. 同居者あり |
| f) 夫の姉妹  | 1. なし         | 2. 全部別居 | 3. 同居者あり |
| g) 他の同居者 | 〔本人の何に当るかを記入〕 |         |          |
| h) 子供    | 1. あり         | 2. なし   |          |

|     | 本人の父 | 本人の母 | 夫の父 | 夫の母 | 夫の兄弟姉妹 | 他同居の者 | 子供 | 不明 |
|-----|------|------|-----|-----|--------|-------|----|----|
| 東京国 | 2    | 5    | 6   | 11  | 7      | —     | 91 | 0  |
| 東京  | 4    | 5    | 10  | 16  | 10     | 11    | 93 | —  |
| 藤沢  | 2    | 4    | 13  | 23  | 9      | 5     | 96 | —  |
| 田富  | 3    | 3    | 17  | 29  | 16     | 4     | 93 | —  |

いずれも、全サンプルに対する%

まず、“子供あり”はどの地点でも90%をこえている。これは別として、目上やいわゆる気取をしななければならない同居者だけをみると、“夫の母”が一番多く11~29%であり、つぎは“夫の父”で6~17%である。そうして、“本人の父”、“本人の母”は5%たらずずつであり、“夫の兄弟姉妹”も平磯（漁村）以外では10%たらずである。こんど調査した4地点をくらべると、東京がいちばん同居者が少なく、藤沢はこれにつぎ、漁村（平磯）は農村（田富）より同居者が多いようであるが、この4地点の調査だけからは、なんとも結論をくだすことはできない。

### 10 a 学 歴

- a) 学歴のことをうかがいますが、あなたが最後に行かれた学校はどこですか？

- |         |             |            |        |
|---------|-------------|------------|--------|
| 1. 学歴なし | 2. 小 学      | 3. 高 小     | 4. 新制中 |
| 5. 旧制中  | 6. 新制高      | 7. 旧制高専、短大 | 8. 新制大 |
| 9. 旧制大  | 10. その他〔校名〕 | 通算         | 学年     |

|     | 小学校以下 | 高小新中 | 旧中新高 | 旧専大学 | 他 | 計   |
|-----|-------|------|------|------|---|-----|
| 東京国 | 23    | 31   | 35   | 7    | 4 | 100 |
| 東京  | 19    | 30   | 41   | 7    | 3 | 100 |
| 藤沢  | 34    | 46   | 18   | —    | 2 | 100 |
| 田富  | 50    | 37   | 9    | 3    | 1 | 100 |

学歴は地点により差があり、サンプルのうえでは藤沢はいちばん高く、東京がこれについている。しかし両者の間に確かに差があるとはいえない。田富と平磯とではこれより学歴がずっと低い。この2村をくらべると、平磯（漁）のほうが低い学歴を示している。

### 4. 職 業

- a) あなたは現在家事のほか何か仕事をもつておいでですか、どんな仕事ですか（内職を含みます）？

〔注：団体役員等の名誉職は含まない〕

- b) あなたは、その仕事をどこでなさいますか？

|     |                                                                |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 0.  | 家事以外の仕事は何もしていない                                                |
| 1.  | 専門的技術的職業（高級技術員、教員、医師、看護婦、司法、芸術家など専門的知識や高等教育又はそれに準ずる免許を必要とするもの） |
| 2.  | 管理的職業（社長、重役、高級公務員、課長級以上の人で、自らは事務、販売、作業ばかりに従事しないで人を使つて仕事をするもの）  |
| 3.  | 事務従事者（平事務員、タイピスト、デパート店員、車掌、駅員などで、管理指揮などの責任をもたない事務従事者）          |
| 4.  | 小 店 主（自らは店先き、仕事場に出るもの、理髪師）                                     |
| 5.  | 店 員（小売店、卸売店など小企業の店員に限る、家族従業を含む）                                |
| 6.  | 農 業                                                            |
| 7.  | 林 業                                                            |
| 8.  | 漁 業                                                            |
| 9.  | 職人及び工員（裁縫、はなお作り、袋はり、運転手を含む）                                    |
| 10. | 単純労働者（小使、工夫、家政婦など特別の訓練のいらぬ反復的な性質の筋肉労働者）                        |
| 11. | その他（記入）                                                        |
| 12. | 家の商売の手伝い程度                                                     |
| 0.  | 非該当（aが0, 12の場合）                                                |
| 1.  | よそへつとめに行く                                                      |
| 2.  | 自分のうちの店（家族従業者を含む）                                              |
| 3.  | 自分のうちです（内職など）                                                  |

|     | 無 | 職* | よそへつとめに行く | 自分のうちの店（農業をふくむ） | 自分のうちです（内職をふくむ） | 計（有職者）    |
|-----|---|----|-----------|-----------------|-----------------|-----------|
| 東 京 |   | 69 | 23        | 34              | 43              | 100 (182) |
| 藤 沢 |   | 67 | 10        | 59              | 31              | 100 ( 39) |
| 田 富 |   | 35 | 6         | 89              | 5               | 100 ( 83) |
| 平 磯 |   | 54 | 40        | 51              | 9               | 100 ( 53) |

\* 全サンプルに対する%、不明をふくむ

主婦の職業という場合、内職が本職かという問題があるが、内職の定義があいまいで、にわかに規定できないので、すべてをいつしよに扱った。田富（農村）以外では、それでもなお、無職が半分以上であり、都市では70%に近い。そこで、これだけのサンプルから職業別をしらべても意味がないから、仕事をもっている人がどこで仕事をしているかをみることにする。

東京では、“自分のうち”がいちばん多く、仕事をもっているもののうちの43%であるが、その多くはおそらく内職というべきものであろう。つぎは“自分のうちの店”で34%であるが、これは夫の職業が販売業であるものに多い。“よそへつとめに行く”ものも23%ある。藤沢では、“自分のうちの店”が約60%で、“自分のうち”は約30%、“つとめに行く”は10%にすぎない。農村である田富では約90%が、自分のうちの農業を手伝っており、これは田富村の全主婦の60%に近いものが農業に従事していることをいみしている。漁村の平磯では仕事をもっているものの約半分が自分の家を仕事場としており、約半分はよそで働いている。

## 11. 夫の職業

あなたの御主人の職業は何ですか？

〔注：各職業の詳細は問4aと同じ〕

0. 無 職      1. 専門的技術的職業      2. 管理的職業  
3. 事務従事者      4. 小 店 主      5. 店 員      6. 農 業  
7. 林 業      8. 漁 業      9. 職人及び工員      10. 単純労働者  
11. その他（記入）

|     | 無 職 | 専門管理 | 事 務 | 販 売 | 農林漁 | 職人及<br>び工員 | 単<br>純<br>労働者 | 他 | 不 明 | 計   |
|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|---------------|---|-----|-----|
| 東 京 | 7   | 24   | 22  | 17  | 1   | 21         | 4             | 4 | 0   | 100 |
| 藤 沢 | 5   | 26   | 27  | 15  | 7   | 10         | 3             | 7 | —   | 100 |
| 田 富 | 5   | 6    | 8   | 9   | 58  | 6          | 2             | 5 | 1   | 100 |
| 平 磯 | 10  | 6    | 4   | 11  | 54  | 10         | 1             | 4 | —   | 100 |

東京では、専門・管理的職業、事務従事者、職人・工員がいずれも20%をこえ、販売従事者がこれについている。この結果を、他の調査の東京の男全体の職業分布にくらべると、専門・管理が多いが、そのずれは結婚している男の地位や年齢の高さに対応するものであろう。

藤沢も東京とよく似ている。田富は農業が60%近く、他の職業は10%に達しない。平磯では漁業が48%で、他の職業はせいぜい10%である。

## 12. 夫の学歴

あなたの御主人が最後に行かれた学校はどこですか？

1. 学歴なし      2. 小 学      3. 高 小  
4. 新 制 中      5. 旧 制 中      6. 新 制 高  
7. 旧制高専、短大      8. 新 制 大      9. 旧 制 大

10. その他〔校名〕  通算  学年

|     | 小学校以下 | 高小・新中 | 旧中・新高 | 旧専・大学 | 他 | 不 明 | 計   |
|-----|-------|-------|-------|-------|---|-----|-----|
| 東 京 | 16    | 28    | 25    | 28    | 2 | 1   | 100 |
| 藤 沢 | 5     | 30    | 26    | 36    | 3 | —   | 100 |
| 田 富 | 16    | 75    | —     | 6     | 2 | 1   | 100 |
| 平 磯 | 43    | 35    | 10    | 6     | 3 | 3   | 100 |

東京では高専・大学、高小・新制中学、旧制中学・新制高校がいずれも25%をこえている。この結果は他の調査にくらべると、多少高い学歴の方によつていようであるが、決定的にそういえるほどではない。藤沢も東京に似ている。田富と平磯では高等小学以下（小学校をふくむ）が約80%であるが、平磯（漁村）のほうが、小学校だけというものが多い。

これと、主婦の学歴とをくらべると、どの地点でも平均すると、主婦の学歴の方が、夫の学歴より低



い。そして、東京の場合、夫婦の学歴をくらべると、妻のほうが夫より学歴が高いものは10%たらず、同じ学歴のものは約50%で、夫のほうが妻より高いものが約40%である。

### 第3項 主婦と職業

こんどは主婦がしている家事以外の仕事や、職業についてみることにしよう。これに関する項目としては、すでにのべた職業（問4）のほかに、結婚前の職業（問5）、その職業をやめた理由（問6）、なにか仕事をしたいと思うか（問7）、女が勤めに出ることについての賛否（問8）、子供が生れてからも職業をつづけることについての賛否（問9）がある。

さきにのべたとおり（問4）、職業をもっている主婦は、東京、藤沢では約30%、田富は65%、平磯46%であつた。そして、その大部分は自分の家の仕事のでつたものである。

いま、結婚前の職業と現在の職業とを比較したつぎの質問の結果をみると、質問のニュアンスによつて、現在、職業についているものの%は多少くうが、つぎのようになる。

#### 5. 結婚前の職業

あなたは結婚前に何か職についたことがありますか？ それはいまと同じ職業ですか？

1. 結婚前も現在も無職      2. 結婚前は無職で今は職業をもっている  
3. 現在と同じ職業      4. 現在とちがう職業      5. 結婚前は職業をもっていたが、今は無職

|    | 前も今も無職 | 前は無職今は職業をもっている | 現在と同じ職業 | 現在とちがう職業 | 前はあつたが今は無職 | 不明 | 計   |
|----|--------|----------------|---------|----------|------------|----|-----|
| 東京 | 36     | 14             | 4       | 11       | 33         | 2  | 100 |
| 藤沢 | 30     | 13             | 4       | 9        | 35         | 9  | 100 |
| 田富 | 18     | 6              | 36      | 19       | 13         | 8  | 100 |
| 平磯 | 32     | 18             | 8       | 20       | 19         | 3  | 100 |

この結果と、問4とから、無職の率を結婚前と現在とでくらべてみよう。

|            | 東京 | 藤沢 | 田富 | 平磯 |
|------------|----|----|----|----|
| 結婚前に無職だつた人 | 50 | 43 | 24 | 50 |
| 現在（主婦）無職の人 | 60 | 67 | 35 | 54 |

すなわち、結婚前に無職だつたものは、東京、平磯では約半分、藤沢で約40%、田富では24%にすぎない。すなわち、田富のような農村では未婚者で、自分の家の農業の手つたいをするものが多いのである。そしていずれにしろ、主婦である現在の方が無職が多くなつてゐる。

このことは、はじめの表のつぎのことにも符合する。たとえば、東京では結婚前は職業をもつていて現

在無職のものが33%あり、逆に結婚前無職だつたもので現在職業をもっているものが14%である。そして、結婚前後とも同じ職業をつづけているものは、農村の田富以外では4~8%にすぎない。すなわち、女にとって結婚と職業との関係は大へんに深いものである。それでは、どんな職業の人が、結婚後も同じ職業をつづけているかという、東京では広い意味でのホワイト・カラー（専門、管理、事務的職業）のものに多い。農村では農家から農家へ嫁つぎ、農業をつづけるものが多いことがはつきりとしている。

ところで、現在の年齢別に結婚前の無職の人の%をくらべれば、東京では20歳~39歳の人は約37%で、40歳台で約60%、50歳以上では70%をこえる。これは、時代が新らしくなるほど、結婚前に職業についていたものが多くなつてくることを示している。

つぎに、結婚前に職業をもつていたが、いまは無職のものについて、その職業をやめた理由をたずねてみた。

#### 6. 職業をやめた理由

〔前問の答が5のものにだけきく〕

なぜその職業をやめたのですか？

非該当

1. 結婚したから      2. 子供ができたから      3. 病気になつたから  
4. 年をとつたから      5. 経済的に楽になつたから      6. その他〔記入〕

|    | 結婚したから | 子供が出来たから | 病気になつた | 年をとつた | 経済的に楽になつた | その他 | 計   |
|----|--------|----------|--------|-------|-----------|-----|-----|
| 東京 | 74     | 7        | 3      | 1     | 1         | 14  | 100 |
| 藤沢 | 68     | 5        | —      | —     | —         | 27  | 100 |
| 田富 | 82     | 6        | —      | —     | —         | 12  | 100 |
| 平磯 | 77     | —        | —      | —     | —         | 23  | 100 |

東京以外は該当者が少ないが、“結婚したから”というものがだんぜん多く、68~82%にも達している。その他の理由は東京では“子供ができたから”というものが約7%あるが、その他はほとんど問題にするにたりない。

こんどは、現在無職のものに対して、家事以外の仕事をしたいか否かを尋ねてみた。この結果はつぎのようになる。

#### 7. 家事以外にしたい仕事

〔現在無職のものにきく〕

あなたは何か仕事をしてみたいと思ひますか？ それはどのような仕事ですか？

非該当

1. 仕事をしたいと思わない      2. 仕事をしたい（したい仕事を記入）

|     | したいと思わない | 仕事をしたい    |         |         |     | 不 明 | 計   |
|-----|----------|-----------|---------|---------|-----|-----|-----|
|     |          | よそへつとめに行く | 自分のうちの店 | 自分のうちです | 不 明 |     |     |
| 東 京 | 53       | 9         | 3       | 21      | 9   | 5   | 100 |
| 藤 沢 | 50       | 13        | —       | 33      | 3   | 1   | 100 |
| 田 富 | 53       | 3         | 3       | 23      | 9   | 9   | 100 |
| 平 磯 | 73       | 2         | 2       | 10      | 11  | 2   | 100 |

すなわち、仕事をしたいと思わない人が、東京、藤沢、田富では約半分、平磯（漁村）では70%以上である。そして仕事をしたいものは、さきの3地点では約40%、平磯は25%である。

そうして、仕事をしたいと思うものの希望する仕事を整理すると、“自分のうちです”——おそらく内職を希望する——ものが、仕事を希望するものの約半分である。

ところで、仕事をしたいと思うか否かを、年齢別にみると、若いものほど仕事をしたいと思うものが多い（20～49歳では約45%が仕事を希望し、50歳以上では約20%にすぎない）。

また、学歴別にみると、小学校以下の学歴のものは、“仕事をしたいもの”が29%、高小・新制中学で38%、旧制中学以上で45%となり、学歴が高くなるほど、仕事を希望していることが分かる。一般に、学歴の高いもののほうが生活は楽であると考えられることから——問31の収入の項参照——、仕事の希望は単に収入を求めるためばかりとはいえない。こんど、はつきりとその理由を尋ねてみる必要がある。

つぎには、一般論として、くらしに困らない女が、勤めに出ることについての可否をしらべてみた。

#### 8. 女の人が勤めに出ること

とくべつ暮らしに困らなければ、女は勤めに出るよりは家庭の仕事をしている方がよいという意見がありますが、あなたはこのことをどう思いますか？

1. 賛成（家の仕事をする方がよい）
2. 一がいにいえない
3. 反対（女も外で働いた方がよい）
4. その他（記入）
5. D. K.

|     | 賛 成 | 一がいにいえない | 反 対 | そ の 他 | 不 明 | 計   |
|-----|-----|----------|-----|-------|-----|-----|
| 東 京 | 58  | 14       | 22  | 4     | 2   | 100 |
| 藤 沢 | 57  | 19       | 21  | 2     | 1   | 100 |
| 田 富 | 69  | 13       | 13  | 2     | 3   | 100 |
| 平 磯 | 65  | 12       | 19  | 1     | 3   | 100 |

この質問はわざと、“……家庭の仕事をするほうがよい”というほうに、答がなりやすいような質問にしているが、その結果は、上にみるように、4地点とも過半数が“家で仕事をするほうがよい”といい、“女も外で働いたほうがよい”というものは約20%にすぎない。

この質問を東京で年齢別にみても、学歴別にみても、さらに現在職業についているか否か別にみても全く変わらず、以上のどんなカテゴリーのものも、半分以上が、“家の仕事をするほうがよい”といっている。

ることは、注目に値しよう。

こんどは、子供が生まれてから後の職業について、つぎのような質問を試みた。

#### 9. 子供が生まれてからの職業

女の人の中には、子供が生まれてからでも職業をつづけたいという人がいますが、事情がゆるせば、そうした方がよいと思いますか、それとも子供が生まれた以上は職業はやめるべきだと思いますか？

1. 続けた方がよい
2. 場合による
3. やめた方がよい
4. その他（記入）
5. D. K.

|     | 続けた方がよい | 場合による | やめた方がよい | そ の 他 | 不 明 | 計   |
|-----|---------|-------|---------|-------|-----|-----|
| 東 京 | 27      | 16    | 54      | 2     | 1   | 100 |
| 藤 沢 | 28      | 16    | 53      | 1     | 2   | 100 |
| 田 富 | 43      | 12    | 40      | 2     | 3   | 100 |
| 平 磯 | 27      | 18    | 51      | 2     | 2   | 100 |

この質問に対しても、職業をつづけることを否定するものが約50%（田富は40%）である。そして、“続けたほうがよい”というのは、田富（農村）では否定と同じくらいの約40%であるが、他の3地点では約27%である。

この質問も、（東京で）年齢別にみても、学歴別にみても、職業についているか否か別にみても、さらに子供の有無別にみても差がなく、どんなカテゴリーの主婦も“職業をつづけること”に反対するものが多い。

### 第4項 夫との関係

こんどは夫との関係についてみよう。ここでは結婚のし方——見合か恋愛か——（問13）、夫が手伝う家事（問14）、夫婦同伴で出かけるか（問15）、ラジオは夫婦のどちらが望む番組をかけるか（問16）、夫が家事を十分にみとめているか（問28）という5項目についてみよう。

まず、結婚のし方からみよう。

#### 13. 結婚のし方

あなたの結婚は、見合結婚ですか、恋愛結婚ですか？

1. 恋愛結婚（自分でえらんだ人と結婚した）
2. 見合結婚（他の人がすすめてくれ、のち気に入った場合を含む）
3. その他（記入）



|    |   | 恋愛結婚 | 見合結婚 | その他 | 不明 | 計   |
|----|---|------|------|-----|----|-----|
| 東京 | 東 | 25   | 73   | 2   | 0  | 100 |
| 藤沢 | 藤 | 23   | 76   | 1   | —  | 100 |
| 田富 | 田 | 13   | 86   | 1   | —  | 100 |
| 平磯 | 平 | 12   | 83   | 4   | —  | 100 |

すなわち、4地点とも“見合結婚”が73～86%をしめ、“恋愛結婚”は東京、藤沢で約25%、両村では約10%にすぎない。

以下、東京についてくわしくみよう。年齢別にみると、どの年齢層でも“見合”のほうが“恋愛”より多い。しかし、“見合”は20歳台では52%であるが、30歳台74%、40歳台78%、50歳以上83%というぐあいに年齢とともにふえてゆき、逆に“恋愛”は20歳台では47%、30歳台からは急にへつて24%、40歳台20%、50歳以上では約15%となり、最近、恋愛結婚がふえる傾向がはつきりとあらわれている。

また、学歴別にみると、やはりどの学歴でも“見合”のほうが“恋愛”より多いが、学歴が高いほど“見合”はへり“恋愛”はふえることが、これもはつきりと出ている——“見合”は小学以下81%、高小・新制中学72%、旧制中等学校以上69%であるが、“恋愛”は小学17%、高小・新中25%、旧中以上30%である。

このことは夫の学歴別にみた場合にもいえる。すなわち、すべての学歴で“見合”のほうが“恋愛”より多いが、学歴が高くなるほど“見合”がへり“恋愛”がふえる。——小学以下では“見合”86%、“恋愛”11%で、旧高専・大学では“見合”65%、“恋愛”34%である。

夫の職業をホワイト・カラー（専門、管理、事務的職業）と販売的職業、マニユエル（職人および工員、単純労働者）の3つにわけくらべると、やはりどの職業でも“見合”のほうが“恋愛”より多い。しかし、ホワイト・カラーでは“見合”68%、“恋愛”30%で、販売的の“見合”77%、“恋愛”19%とは大きな差があり、マニユエルはこの中間にあり“見合”74%、“恋愛”25%である。

また、同居家族との関係をみると、“夫の母”と同居しているものは“見合”73%、“恋愛”25%であつて、“同居者なし”の“見合”51%、“恋愛”49%とは大きな開きをみせている。しかし、結婚のし方が“恋愛”でも“見合”でも11%が“夫の母”と同居している。すなわち、同居者がいないものは比較的に“恋愛結婚”が多いが、“恋愛結婚”でも“夫の母”と同居しているものが少ないわけではない。

以上をまとめると、どんなカテゴリでも“見合”のほうが“恋愛”より多い。しかし、年齢の若い層、学歴の高い層、同居者がいないもの、夫の職業がホワイト・カラーであるものは“恋愛”が多くなる傾向がある。

ところで、結婚のしかたと、現在の生活に満足しているか否か（問42a）とをくらべてみよう。“満足”と“まず満足”をあわせてしまうと、“見合結婚”をしたものでは72%がそうであり、“恋愛結婚”をしたものの70%がそうである。“不満の点がある”と“不満”をあわせてしまうと、“見合”では24%、“恋愛”では28%であり、“見合結婚”をした人と“恋愛結婚”をした人との間の満足度に差はみとめられない。

つぎに夫が手伝う家事、および手伝うべきだと思う家事についてみよう。

#### 14a 夫が手伝つてくれる家事

a) あなたの御主人は次のことを手伝つてくれますか？〔ひとつひとつ質問し、いくつでも○をつけること〕

b) ではこのうち、男も手伝うべきだと思うものがありますか？（それはなんですか？）

##### a 現在

1. 床の上げ下し
2. 室内の掃除
3. 食事の後片づけや炊事
4. 洗濯

##### b べきだ

0. どれも手伝う必要なし
1. 床の上げ下し
2. 室内の掃除
3. 食事の後片づけや炊事
4. 洗濯

|          |    | どれも手<br>伝わない | 床の上げ下し | 室内の掃除 | 食事の後片<br>づけや炊事 | 洗<br>濯 | 計*       |
|----------|----|--------------|--------|-------|----------------|--------|----------|
| a<br>現在  | 東京 | 39           | 53     | 41    | 17             | 7      | 100(587) |
|          | 藤沢 | 44           | 47     | 38    | 12             | 10     | 100(116) |
|          | 田富 | 62           | 29     | 22    | 15             | 8      | 100(127) |
|          | 平磯 | 50           | 39     | 26    | 21             | 11     | 100(114) |
| b<br>べきだ | 東京 | 44           | 46     | 34    | 12             | 9      | 100(587) |
|          | 藤沢 | 38           | 48     | 35    | 6              | 9      | 100(116) |
|          | 田富 | 50           | 38     | 25    | 10             | 5      | 100(127) |
|          | 平磯 | 53           | 32     | 29    | 16             | 10     | 100(114) |

\*（ ）内は100%としたサンプルの数。2つ以上あげたものがあるから、合計は100にならない。

まず現在手伝っているか否かのほうからみよう。全くなにも——ただし、ここにあげた4つの家事を——手伝わないものは、東京では39%で、田富(62%)、平磯(50%)の両村よりも少ない。藤沢は東京に近い。そして、どこでも“床の上げおろし”、“室内のそうじ”、“食事のあとかたづけ”、“洗濯”の順に少なくなっている。また、東京、藤沢では、“床の上げ下し”と“室内のそうじ”はかなりあるが、“洗濯”はごく少ない。また両村でも、これに似た傾向を示している。

つぎに、夫が手つたうべき家事についてみよう。これについても、“全く手伝う必要がない”というのは約40～50%をしめている。そして、手伝うべき仕事としては、“床の上げ下し”、“室内のそうじ”はかなりあるが、“あとかたづけ”や、とくに“洗濯”はずつと少ない。

以下、東京についてくわしくみよう。まず年齢別にみると、夫が手伝う家事については年齢による差はみられないが、“全く手伝うてくれない”というものは年齢の高い主婦の夫ほど多い——20歳台で24%、30歳台39%、40歳台43%、50歳以上50%。そして、夫は“どれも手伝う必要がない”というものは、20歳台、30歳台、40歳台ではあまり差がなく約40%で、50歳以上では50%を占めている。

また、本人および夫の学歴別にみると、いずれも学歴が高いほど“全く手伝わない”というものがへつ

ている——本人の学歴が小学校以下では52%で、旧制中等学校以上では31%；夫の学歴が小学校以下では45%で、高専・大学では31%である。

職業関係をみると、“主婦がよそにつとめに行く”ものでは“なにも手伝わない”夫は24%にすぎないが、無職の主婦の夫で“なにも手伝わない”ものは41%である。

ところで、現在なにも手伝っていない夫の主婦のうち65%は、やはり夫は全く手伝う必要がないといっており、一方、現在なにかを手伝っている夫の主婦のうち35%が、夫は全く手伝う必要はないといっている。

これらについては、手伝う必要のない理由をたずねるべきであつたと思われる。

以上をまとめると、都市の夫の方が家事を手伝い、若く、学歴の高いものほど家事を手伝っており、主婦が働きに出ている場合は大部分が何か手伝っているわけである。

### 15. 夫婦同伴で出かけるか否かについて

あなたは御主人といつしよに映画を見に行つたり、どこかへあそびに行つたりしますか？

1. よく行く      2. 時々行く      3. めつたに行かない      4. 全く行かない

|   |   | よく行く | 時々行く | めつたに行かない | 全く行かない | 計   |
|---|---|------|------|----------|--------|-----|
| 東 | 京 | 22   | 34   | 23       | 21     | 100 |
| 藤 | 沢 | 13   | 39   | 27       | 21     | 100 |
| 田 | 富 | 8    | 32   | 18       | 42     | 100 |
| 平 | 磯 | 3    | 25   | 14       | 58     | 100 |

この結果によれば、東京と藤沢は両村よりも、同伴で外出することが多いことが、はつきり分かる。とくに“全く行かない”というものが、両都市では約20%であるのに、両村では40%以上である。

これを（東京で）、年齢別にみると、若いものほど同伴で出るものが多い——“めつたに行かない”と“全く行かない”をあわせると、20歳台は22%であるが、50歳以上では、70%以上もある。

学歴別にみても、本人の学歴が高いほど、また夫の学歴が高いほど同伴で出るものが多い——“めつたに”および“全く”行かないをあわせると、本人が小学校以下の学歴のものは70%以上で、旧制中等学校以上なら約20%にすぎない。夫の学歴が小学校以下では77%、高専・大学では28%にすぎない。

職業別は本人が職業をもっているか否かではほとんど差がない。夫の職業別にみると、ホワイト・カラー（専門、管理、事務）は、“よく”および“時々”行くが70%で、販売的職業やマニュアルの40%台より多い。

以上をまとめると市では村より同伴で出かけることが多く、また年齢が低いほど、学歴が高いほど、さらにホワイト・カラーであれば、同伴で出かけることが多くなる。

### 16. ラジオの番組について

ご主人が聞きたいラジオの番組とあなたの聞きたい番組とがちがうときに、どちらをかけますか？

1. 主人の番組をかけることが多い      2. 主人と自分の番組を半々位かける（時と場合による）

3. 自分（妻）の番組をかけることが多い      4. その他（記入）

|   |   | 主人の番組をかけることが多い | 主人と自分の番組を半々位かける | 自分の番組をかけることが多い | 他  | 計   |
|---|---|----------------|-----------------|----------------|----|-----|
| 東 | 京 | 55             | 21              | 9              | 15 | 100 |
| 藤 | 沢 | 58             | 13              | 7              | 22 | 100 |
| 田 | 富 | 61             | 22              | 3              | 14 | 100 |
| 平 | 磯 | 68             | 15              | 3              | 14 | 100 |

各地点ともそれほど大きな差はないが、市のほうが村よりやや妻の番組のほうにかたよる傾向がみられるが、4地点とも“主人の番組”が60%前後で、“主人と自分が半々”というのが10%から20%台で、“自分（妻）の番組”というのは10%に満たない。

東京について、くわしくみても、すべての分類のカテゴリで“主人の番組”が50%をこえている。そうして、年齢別にみても、学歴別（本人および夫の）にみても、職業についているか否かの別、夫の職業別にみても、全く差はみとめられない。

### 28. 夫の家事評価

あなたの御主人は、あなたの家事仕事の価値を、十分みとめてくれていますか？

1. 十分みとめてくれる      2. 大体みとめてくれる      3. 時と場合による  
4. 余りみとめてくれない      5. 全くみとめてくれない

|   |   | 十分みとめてくれる | 大体みとめてくれる | 時と場合による | 余りみとめてくれない | 全くみとめてくれない | 不明 | 計   |
|---|---|-----------|-----------|---------|------------|------------|----|-----|
| 東 | 京 | 54        | 31        | 4       | 8          | 2          | 1  | 100 |
| 藤 | 沢 | 51        | 37        | 3       | 6          | 1          | 2  | 100 |
| 田 | 富 | 67        | 17        | 4       | 10         | 2          | —  | 100 |
| 平 | 磯 | 51        | 35        | 1       | 7          | 2          | 4  | 100 |

この結果も、4地点の間の差はみとめられない。“十分みとめてくれる”が各地とも50%をこえ、“大体みとめてくれる”とあわせると80%以上に達している。

東京についてみても、やはりどんな分類のどのカテゴリでもみとめてくれる夫が多い。年齢別では、若くなるにしたがつてごくわずかであるが、夫の理解は深まる。学歴別にみたときも、本人の学歴別の場合にしても、夫の学歴別の場合にしても、学歴が高くなるほどごくわずかではあるが、夫の理解が深まる。しかし職業別では（本人、夫のいずれの場合も）差がみとめられない。

そうして、“家事をなにも手伝わない”夫の妻も（問14a）、なにか手伝ってくれる夫をもつ妻も、“夫が妻の家事を十分にみとめてくれる”と考えている程度は、同じである。

## 第5項 家の経済

家の経済については、収入（問30）、くらしむきはどうか（問31）、家計を司る人（問32）、予算をた



てるか(問33)、家計簿をつけるか(問34)、家計費のうけとり方(問35)、どんな家庭用品があるか(問29)、財産を知っているか(問36)という8項目を調査した。

まず、収入からみてゆこう。

### 30 年 間 収 入

〔リスト〕 あなたの世帯全部では、だいたい1年間の収入はどのくらいになりますか？

〔注1：使用人、同居人の収入はのぞく〕

〔注2：本人が使用人、同居人の場合には非該当とする〕

非 該 当

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 0. (イ) な し         | 1. (ロ) 5万円以下        |
| 2. (ハ) 5万円から 10万円  | 3. (ニ) 10万円から 15万円  |
| 4. (ホ) 15万円から 20万円 | 5. (ヘ) 20万円から 30万円  |
| 6. (ト) 30万円から 50万円 | 7. (チ) 50万円から 70万円  |
| 8. (リ) 70万円から100万円 | 9. (ヌ) 100万円から150万円 |
| 10. (ル) 150万円以上    |                     |

|         | ～20万円 | ～30万円 | ～50万円 | 50万円～ | 不 明 | 非 該 当 | 計   |
|---------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|
| 東 京     | 21    | 26    | 29    | 17    | 7   | 0     | 100 |
| 藤 沢     | 20    | 25    | 29    | 23    | 3   | —     | 100 |
| 田 富     | 37    | 15    | 14    | 6     | 28  | —     | 100 |
| 平 磯     | 59    | 11    | 6     | 3     | 21  | —     | 100 |
| 東 京 男 * | 30    | 23    | 27    | 25    | 5   | —     | 100 |

\* 昭和30年 東京20才以上の男、日本社会学会調査委員会、社会的成層と移動の調査

この表からみても東京と藤沢はあまりちがいはない。両村は農家や漁業の家が多いために不明が多いが、また低収入が多い。同じような東京の男についての調査とくらべると、その調査では未婚の男をふくんでいるが、この調査より収入の分布は広くちがっている。これらのようすをはつきりさせるためには、各地の平均収入を計算してみると、つぎのようになるが、上にのべたように、2村では不明が多く、またサンプル数が少なく標準偏差が大きいので、差があるとは断言できない。

|          | 東 京 | 藤 沢 | 田 富 | 平 磯 | 東 京 男 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 平均収入(万円) | 85  | 37  | 27  | 22  | 40    |

収入額の調査は非常にこんなんであり、その答はかならずしも信頼できるものではない。しかしこのような調査のし方から得た答による収入の多少は、以下の分析で分かるように、他の項目との関係が深いから、一応あるていどは信頼できるものといえよう。

東京について、収入と他の項目との関係をくわしくみてゆこう。まず年齢別に平均収入をみると下表のように、高年齢ほど収入がふえてゆく。

学歴別では、どういうわけか、小学校以下の学歴のものの平均収入のほうが、高小・新制中学のものよ

り多めにでている。しかし、これはサンプルの上だけのことで、東京の全主婦をしらべたときもそうなるとは断言できない。旧制中等学校以上のものの収入はたしかに多い。すなわち、旧制中等学校以上の学歴をもつものは、多収入の夫をもつ傾向がうかがえるのである。

夫の職業別にみると、専門・管理的職業と販売的職業の収入が多く、事務やマニユエルの収入は少ない。

また、本人の仕事のしかた別にみると、“自分のうちの店”で働くものは——その多くは夫が管理的職業または販売的職業であるから——収入が多く、“無職”のものはこれにつぐが、全主婦を調査したときも、無職の平均収入の方が低くなるかどうかはわからない。“よそにつとめに行く”ものや、“自分のうち”で働く——内職者——の収入は、前にあげた二つの場合より少ない。

| 年 令 別     | 平 均 収 入 (万円) |             |           |         |
|-----------|--------------|-------------|-----------|---------|
|           | (20才台)       | (30才台)      | (40才台)    | (50才以上) |
|           | 30           | 33          | 40        | 41      |
| 学 歴 別     | (小学以下)       | (高小・新中)     | (旧中等以上)   |         |
|           | 34           | 31          | 40        |         |
| 夫 の 職 業 別 | (専門・管理)      | (事 務)       | (販 売)     | (マニユエル) |
|           | 41           | 32          | 40        | 28      |
| 本 人 の 仕 事 | (無 職)        | (よそへつとめに行く) | (自分のうちの店) | (自分のうち) |
|           | 37           | 30          | 41        | 29      |

つぎに、収入の多少が満足度(問42)におよぼす影響をみると、下表のように、収入が多いものほど満足度が高くなっている。

| 収 入       | ～20万円 | ～30万円 | ～50万円 | 50万円～ |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 満 足、まず満足  | 54%   | 61%   | 74%   | 88%   |
| 不満な点あり、不満 | 32    | 27    | 23    | 9     |

つぎに、くらしむきについてみることにしよう。

### 31. く ら し む き

あなたの家のくらしむきはいかがですか？

- |            |             |          |
|------------|-------------|----------|
| 1. 困 ら な い | 2. 何とかやっている | 3. 苦 し い |
| 4. 非常に苦しい  |             |          |

各地とも“なんとかやっている”が約50%で、“苦しい”ものよりは“困らない”もののほうが多いから、平均的にみると“なんとかやっている”よりややよい状態にあるといえる。東京は他にくらべて、やや苦しいほうによっている。これはもともと、主観的な感じであり、平均収入額の多少とくらべると

|    | 困らない | 何とかやっている | 苦しい<br>非常に苦しい | 無回答 | 計   |
|----|------|----------|---------------|-----|-----|
| 東京 | 25   | 54       | 21            | 0   | 100 |
| 藤沢 | 35   | 51       | 14            | —   | 100 |
| 田富 | 38   | 51       | 11            | —   | 100 |
| 平磯 | 32   | 49       | 18            | 1   | 100 |

しろい。

東京についてくわしくみてゆこう。どんな分類をしてみても、1,2の例外をのぞいて、“なんとかやっている”というものがいちばん多く、たいてい40%をこえている。

まず年齢別にみると、20歳台では“困らない”が比較的に多く、30歳台は“なんとかやっている”が他より多めで、40歳台、50歳以上では“苦しい”が多い。前にみたように、年齢が高くなると収入もふえているのであるから、このことは収入のふえ方が不十分なためか、他の原因によるのか、単なる主観を表現する基準がちがうのか、ここでは解釈することができない。

本人の仕事の状態別にみると、収入の多かつた“自分のうちの店で働らく”ものと“無職”のものは、“なんとかやっている”が約50%、“困らない”が約30%で、“苦しい”は15~20%にすぎない。これに対して、収入の少なかつた“よそにつとめに行く”ものは、“苦しい”が50%以上もあり、“自分のうちでする”——内職者——は“苦しい”が35%もある。

夫の職業別では、専門・管理あるいは販売的職業では、“困らない”が他よりも多くて約38%ずつであるが、事務やマニュアルでは“苦しい”が20~30%もある。

そうして、このくらしむきと、満足度（問42）との関係は非常に深く、“苦しい”ものはそうでないものより不満が多く、満足しているものはそうでないものより“困らない”が多いことは、つぎの表からもわかる。

|            | 困らない | なんとかやっている | 苦しい | 計   |
|------------|------|-----------|-----|-----|
| 満足、まず満足    | 30   | 57        | 13  | 100 |
| 時による       | 11   | 61        | 28  | 100 |
| 不満な点がある、不満 | 12   | 44        | 44  | 100 |
| 計          | 100  | 100       | 100 |     |

### 32. 家計の担当者

お宅では家計をやっているのはどなたですか（そのかたはあなたの何にあたりますか）？

〔注：家計をやるとは、オカズを買うときお金を出すがイフはだれがもっているかというような事〕

1. 本人（妻）
2. 夫
3. 夫の母
4. 本人の母
5. 夫の父
6. その他〔本人の何に当るかを記入〕

|    | 本人 | 本人以外 | 無回答 | 計   |
|----|----|------|-----|-----|
| 東京 | 90 | 10   | 0   | 100 |
| 藤沢 | 83 | 17   | —   | 100 |
| 田富 | 55 | 43   | 2   | 100 |
| 平磯 | 75 | 25   | —   | 100 |

東京や藤沢では、“本人（妻）”が家計を担当している場合が80%~90%に達している。平磯（農村）もこれに近く、妻が担当することが75%であるが、田富（農村）では55%である。そうして、あとは東京、藤沢、平磯では“夫”か“夫の母”が担当している場合が同じぐらいずつであるが、田富では“夫”が担当している場合が全体の28%もある。

東京について家計の担当者が本人であるか否かを、各種の要因から分析してみよう。まず、年齢別にみると、20歳台は30歳以上より“本人”が担当する場合がすこし少ない。——それでも84%が“本人”である。——同居家族別にみると、いわゆる本人より目上の人——本人または夫の父母、夫の兄弟姉妹——と同居している場合は、“本人”が家計を担当することは約70%であつて、同居人に子供しかいない場合の90%にくらべて少ない。しかし、このうち夫の母と同居の場合、特に少ないとはいえない。仕事をしているか否かでは、“自分のうちの店”で働いている場合——おそらく、夫が商人で、商売の収支といつしよになるためか——“本人”が担当する場合は、他にくらべてやや少ない。結婚のし方——見合か恋愛か——や、収入の多少による差はみとめられない。

また、逆に家計を本人が担当しているか否かによつて、“くらしに困らないか、苦しいか（問31）”にも、満足度（問42）にも差はあらわれていない。

### 33. 予算を立てているか

あなたのお宅では、“月々予算を立ててやっていますか”？

1. 予算を立てている
2. 予算を立てたり立てなかつたり
3. 全く予算を立てない
4. その他〔記入〕

|    | 予算を立てている | 予算を立てたり立てなかつたり | 全く予算を立てない | 他 | 計   |
|----|----------|----------------|-----------|---|-----|
| 東京 | 58       | 15             | 25        | 2 | 100 |
| 藤沢 | 61       | 10             | 28        | 1 | 100 |
| 田富 | 34       | 19             | 45        | 2 | 100 |
| 平磯 | 39       | 10             | 47        | 4 | 100 |

東京と藤沢では“予算を立てている”ものが約60%で、“全くたてない”は25%前後である。しかし、田富、平磯では“たてる”ものが約35%、“たてない”ものが約45%で、市と村のちがいを示しているようである。

つぎに、東京についてみてゆくと、年齢別では、20歳台、30歳台は約65%が“予算を立てる”が、40歳



以上では50%ならずである。学歴別では、学歴が高いほど“たてる”が多く、小学校卒業以下では44%、旧制中等学校以上では67%もある。本人の職業や、夫の職業別では、販売的職業の場合、“予算をたてる”ものが少ない(約40%)。当然のことながら、家計を本人が担当しない場合も、“予算をたてる”ものが少ない。

### 34 家計簿をつけているか

あなたのお宅では、家計簿をつけていますか？

1. つけている      2. 主なものだけつけている      3. つけたり、つけなかつたり  
4. 全くつけていない      5. その他(記入)

|     |  | つけている | 主なものだけ<br>つけている | つけたりつけ<br>なかつたり | 全くつけ<br>ていない | 他 | 不 明 | 計   |
|-----|--|-------|-----------------|-----------------|--------------|---|-----|-----|
| 東 京 |  | 38    | 8               | 14              | 40           | 0 | —   | 100 |
| 藤 沢 |  | 48    | 4               | 9               | 39           | — | —   | 100 |
| 田 富 |  | 35    | 9               | 11              | 44           | — | 1   | 100 |
| 平 磯 |  | 26    | 4               | 10              | 56           | 4 | —   | 100 |

家計簿を“つけている”ものはサンプルの上では藤沢が一番多く48%であるが、東京の38%より完全に多いとは断言できない。田富は35%、平磯は少なくとも26%である。そうして“全くつけていない”ものが東京では“つけている”と同じくらいの40%、藤沢の“つけていない”は39%であるが、これも“つけている”より少ないとは断言できない。田富は“つけていない”は44%で“つけている”と同じくらいであるが、平磯は“全くつけない”が56%で他の地点より多い。家計の担当者が本人でないものは、田富のほうが平磯より多いのに、平磯のほうが“つけない”ものが多いことは注目に値しよう。

東京について、くわしくみると、年齢別では、若いものほど“つけている”が多く、高年齢ほど“つけていない”が多くなる——20歳台では“つけている”が47%、“つけていない”が33%だが、50歳台ではそれぞれ33%、49%である。学歴別では、学歴が高くなるほど“つけている”ものがふえ、低い学歴ほど“つけない”ものが多い——小学校卒業以下では“つけている”が22%、“つけていない”58%、旧制中等学校以上の学歴あるものでは、それぞれ51%、28%で全く逆である。仕事をしているか否かでは、“つけている”ものはあまり差はないが、“つけていない”は無職や“自分のうちでする”ものには少ない。夫の職業別では、“つけている”ものはホワイト・カラー(47%)のほうが販売(23%)より多く、マニエールはその中間(33%)であり、逆に“つけていない”は販売のほうが(52%) ホワイト・カラー(32%)より多く、マニエールはやはり中間(42%)である。

それでは“予算をたてるか否か”との関係はどうかといえば、“つけている”ものは“たてている”ものが多く、逆に“たてていない”ものでは“つけていない”ものが多い。“予算はたてていて、家計簿もつけている”ものは27%で、“予算はたてず、家計簿はつけない”ものは17%である。

すなわち、若いもの、学歴が高いもの、夫の職業がホワイト・カラーの場合は50%近くが“家計簿をつ

けている”のである。

### 35 家計費のうけとり方

お宅では家計費はどのようにしてうけとりますか？

1. 収入全部をうけとる(妻と相談してきめた額を差引くものを含む)  
2. 一定額の家計費をうけとる      3. 主人が勝手に一部を差引いたのこりをうけとる  
4. 必要のつどうけとる      5. その他(記入)

|     |  | 収入全部を<br>うけとる | 一定額の家計費を<br>うけとる | 差引いたのこ<br>りをうけとる | 必要のつど<br>うけとる | そ の 他 | 不 明 | 計   |
|-----|--|---------------|------------------|------------------|---------------|-------|-----|-----|
| 東 京 |  | 63            | 16               | 5                | 12            | 3     | 1   | 100 |
| 藤 沢 |  | 68            | 16               | 3                | 8             | 3     | 2   | 100 |
| 田 富 |  | 46            | 7                | 4                | 33            | 3     | 7   | 100 |
| 平 磯 |  | 66            | 4                | 1                | 15            | 14    | —   | 100 |

家計費のうけとり方は、東京、藤沢、漁村の平磯はだいたい同じで、“収入全部をうけとる”ものが約60%であるが、田富は46%である。これは農家経済の性格のためかもしれない。そうして田富では、“必要のつどうけとる”が33%もあるが、東京、藤沢、平磯では10%前後で、“一定額をうけとる”は東京、藤沢では16%である。

つぎに、東京についてくわしくみよう。まず、年齢別では、若いものほど“全部”が多く——20歳台78%、50歳台45%——、“必要のつど”は高年齢ほど多くなり50歳台では28%もあるが、20歳台では5%にすぎない。学歴別では高学歴ほど“全部”が多く、“必要のつど”が少ない——小学校以下では“全部”が56%、“必要のつど”が19%、旧制中等学校以上では、それぞれ69%、8%である。夫の職業別では販売が他より“全部”というものが少なく、“必要のつど”が多い。

### 29 家庭用品

〔リスト〕 あなたの家には、次のもののうちどれがありますか？〔あるものはいくつでも○でかこむこと〕

1. 電気アイロン      2. ミ シ ン      3. ラ ジ オ  
4. テ レ ビ      5. 電気洗濯機      6. ミキサー

|     |  | 電 気<br>アイロン | ミ シ ン | ラ ジ オ | テ レ ビ | 電 気<br>洗濯機 | ミキサー | どれもなし | 計<br>100% |
|-----|--|-------------|-------|-------|-------|------------|------|-------|-----------|
| 東 京 |  | 90          | 66    | 96    | 10    | 22         | 15   | 1     | (587)     |
| 藤 沢 |  | 85          | 69    | 93    | 10    | 24         | 16   | —     | (113)     |
| 田 富 |  | 79          | 62    | 96    | 1     | 12         | 2    | —     | (127)     |
| 平 磯 |  | 87          | 39    | 93    | 1     | 3          | 5    | —     | (114)     |

○ ( )内は100%としたサンプルの数。2つ以上あげたものがあるから、合計は100%にならない。

どこにも一番あるものは、“ラジオ”で90%をこえている。つぎは“電気アイロン”であるが、東京、藤沢、田富は90%~79%であり、平磯はこの3地点より少なく57%にすぎない。“ミシン”も平磯は39%で他の3地点の60%台より少ない。“電気洗濯機”は東京、藤沢は約20%、田富は12%、平磯は3%にすぎない。“ミキサー”は東京、藤沢の約15%に対して、2村は5%以下、“テレビ”は東京、藤沢は10%、2村は1%である。

東京について、くわしくみれば、年齢別では、“電気アイロン”と“ミシン”は若いもののほうが多少よけいにもつている。夫の職業別では“電気アイロン”と“ミシン”はホワイト・カラーが、マニュアルよりもつているものが多く、販売はその中間である。“テレビ”、“電気洗濯機”、“ミキサー”は専門・管理や販売では、マニュアルよりもつているものが多く、事務はその中間である。

なお、これらの用品と満足度の関係をみると、“電気アイロン”、“ミシン”、“ラジオ”はもつていても、もつていなくても満足度にかわりはない。しかし、“テレビ”や“電気洗濯機”をもつていないものは、もつていないものより、満足度が高いといえることができる。

### 36 家の財産状態

あなたは家の財産状態（貯金、保険などを含む）をよく御存知ですか？

1. よく知っている      2. 余り知らない      3. 全く知らない

|    | よく知っている | 余り知らない | 全く知らない | 無回答 | 計   |
|----|---------|--------|--------|-----|-----|
| 東京 | 81      | 14     | 5      | 0   | 100 |
| 藤沢 | 76      | 17     | 7      | —   | 100 |
| 田富 | 57      | 29     | 13     | 1   | 100 |
| 平磯 | 72      | 20     | 8      | —   | 100 |

東京、藤沢と漁村の平磯では“よく知っている”が70~80%で、“余り知らない”が14~20%で、“全く知らない”は約5%である。これに対して、農村の田富だけは“よく知っている”が57%で、他の地点より知らないものが多い。

東京についてみると、年齢別では30歳台、40歳台が他より多少“よく知っている”が多い傾向がみられるが、はつきりしたものではない。学歴別では学歴が高いほど“よく知っている”が多く、“全く知らない”は少ない。職業別では本人が“自分のうちの店”で働いているもの、あるいは夫が販売的職業のものは、“よく知っている”が少ない。また当然のことながら、家計を担当しているものは、84%が“よく知っている”が、家計を担当していないものでは51%にすぎない。

家の経済についての他の項目との関係をみると、“予算をたてている”ものは、家の“財産状態をよく知っている”ものが多く、一方、“財産を全く知らない”ものは“予算を全くたてない”ものが多い。すなわち、この両項目（問33と問36）には関係がみられる。

家計簿をつけているかどうか（問34）と財産を知っているかどうかとの関係は、あまり見られない。

家計費のうけとり方（問35）との間に関係はみられ、“収入全部をうけとる”ものは“財産をよく知っている”ものが90%にも達しているが、“主人が勝手に一部をさし引く”ものでは、“よく知っている”ものが67%である。

財産状態を知っているか否かと、満足度の関係は余りあるとはいえない。

## 第6項 主婦個人の生活について

ここでは、主婦が望んだ学歴（問10b）——これは多少他の項目とちがうが、ここで扱う——、けいこごと（問24）、家事だけで満足か（問27a）、現在家事以外の仕事をしているか（問27b）、自由になるとづかいがあるか（問37）、雑誌や本を自分で買うか（問38）、日々の暮らしの中に楽しさがあるか（問39）、生活に対する満足度（問42）という8項目をとりあげよう。

### 10b 希望学歴

〔大学に行つたものはのぞく〕

あなたはもつと上の学校へ行きたかつたとお考えですが、それともあなたの学歴で十分だとお考えですか？

〔もつと上の学校に行きたかつたと答えたものだけにきく〕

では、どのくらいの学校まで行けばよかつたと思いますか？

非 該 当

1. 自分の学歴で十分だ
2. 十分ではないが仕方がない
3. もつと上の学校へ行けばよかつた——高小、新制中まで
4. もつと上の学校へ行けばよかつた——旧制中、新制高まで
5. もつと上の学校へ行けばよかつた——旧制高専、短大まで
6. もつと上の学校へ行けばよかつた——大学まで
7. その他〔記入〕

|                      |    | 充 分 だ | 仕方がない | もつと上の学校へ行けばよかつた |       |       |     | 他 | 無 回 答 |
|----------------------|----|-------|-------|-----------------|-------|-------|-----|---|-------|
|                      |    |       |       | 高小・新中           | 旧中・新高 | 高専・短大 | 大 学 |   |       |
| 東京<br>藤沢<br>田富<br>平磯 | 34 | 18    | 5     | 21              | 11    | 6     | 3   | 2 |       |
|                      | 23 | 14    | 12    | 18              | 17    | 8     | 4   | 4 |       |
|                      | 19 | 35    | 10    | 26              | 3     | 2     | 4   | 1 |       |
|                      | 23 | 18    | 22    | 24              | 4     | 3     | 3   | 3 |       |

この結果をみると、東京では“十分だ”が他より多いが、これは、東京の学歴が高いことにもよるであろう。農村の田富では“仕方がない”というものが多い。“もつと上の学校に行きたかつた”ものも、



田富、平磯では大部分が旧制中学あるいは新制高校止まりであるが、東京、藤沢はそれより高い学歴を望んでいるものも相当にある。

ところで、東京ではさきにも引用した“社会的成層と移動”という調査で、男について同じことが調査されているが（サンプル数288）、それと、この調査の東京の主婦とをくらべてみると、“十分だ”とか、“仕方がない”というものは、あまり差がない。しかし、旧制中等学校・新制高校を希望したものが主婦では21%であるが、男では10%にすぎず、旧制高専・短大の希望者は主婦も男も10%であるが、大学希望者は主婦6%にくらべて男は24%である。すなわち、学歴に満足している率は主婦と男で差がないが、男は大学までを希望するものが多いのに対して、主婦は新制高校の希望者が多い。ただし、男は20歳以上であるから、この調査より少し若いものが多い。

以上のことは、本人の学歴別にみると、もつとはつきりしてくる。自分の学歴で“十分”と“仕方がない”をあわせると、主婦でも男でも、本人の学歴が小学校以下の場合や、新制中学・旧制高等小学の場合、ほとんど差がない。しかし、旧制中・新制高の学歴のある主婦は“十分”、“仕方がない”が59%あるが男では38%にすぎないのである。

#### 24 けいこごとと勉強

あなたは何かおけいこ事をしたり、勉強したりしていますか？ それはなんですか？

1. していない 2. している [その種類くわしく]

|    |  | していない | している | 無回答 | 計   |
|----|--|-------|------|-----|-----|
| 東京 |  | 85    | 14   | 1   | 100 |
| 藤沢 |  | 85    | 15   | —   | 100 |
| 田富 |  | 97    | 3    | —   | 100 |
| 平磯 |  | 96    | 3    | 1   | 100 |

東京、藤沢では、“している”ものが、約15%ずつであるが、2村では3%にすぎない。

東京についてみると、年齢別では40歳台が他の年齢より“している”が多い（20%）。学歴別では旧制中等学校以上のものは、“している”が25%もあるが、それ未満の学歴では6%にすぎない。また、無職のものは働いているものより“している”ものが少し多そうであるが、はつきりとはいえない。夫の職業別では、専門・管理で30%、事務13%、販売やマニュアルは10%未満である。また同居家族についてみても、サンプル数が少ないのではつきりしたことはいえない。

それではどんなことをしているかといえば（東京）、活花、編物、茶道がいちばん多いが、どれも約3%の主婦によってされている。以下、長唄、洋裁、書道、料理などである。これを少しまとめてみると、けいこごと（活花、茶道、長唄、書道、三味線、日本舞踊、舞踊、琴、ピアノ、謡曲、洋舞、詩吟、民謡、仕舞）が10%、実用をかねたこと（編物、洋裁、料理、手芸、和裁など）が5%、教養（語学、読書、その他の研究など）が2%である。

#### 27a 家事だけで満足か

炊事や洗濯、子供の世話などといった家庭の仕事は一家にとって大切な事ですが、あなたはこういう家事だけをしてくらすことに満足しますか、それとも何かほかにしたいと思いますか？

1. 家事だけで満足 2. ほかに何かしたい（どんな事をしたいか） 3. その他（記入）

|    | 家事だけで満足 | ほかに何かしたい | その他 | 無回答 | 計   |
|----|---------|----------|-----|-----|-----|
| 東京 | 39      | 57       | 4   | 0   | 100 |
| 藤沢 | 31      | 66       | 3   | —   | 100 |
| 田富 | 39      | 54       | 6   | 1   | 100 |
| 平磯 | 53      | 39       | 4   | 4   | 100 |

東京、藤沢、田富はほぼ同じで、“なにかしたい”が50%をこえており、“満足”は40%たらずであるが、平磯は逆に“なにかしたい”が40%、“満足”が53%である。

東京について年齢別にみると、若いものほど、“なにかしたい”が多い——20歳台66%、50歳以上では40%弱。学歴別では旧制中等学校以上のものは、それ以下より“なにかしたい”が多い——前者は72%、後者43%。本人が仕事をしているか否かでは差はなく、夫の職業別では、ホワイト・カラーは“したい”が65%、販売は48%で、マニュアルはその中間（50%）である。

この結果と満足度（問42）をくらべると、“家事だけで満足している”ものでは“満足”と“まず満足”というものが79%で、“ほかになにかしたい”というものでは69%である。あとで満足度については総合的にふれるが、この点は注意すべきことであろう。

では、“したい”という人は、どんなことをしたいと思っているか、といえば、編物、手芸、洋裁、洋裁などが一番多い。これをまとめてみると、——まとめ方は問24参照——“実用をかねたこと”が“なにかしたい”人のうちの56%、“けいこごと”が16%、“教養”が12%、ほかに“社会的活動”が6%ある。

#### 27b 家事以外の仕事をしているか

[ほかに何かしたい人に] あなたはそのやりたい事をやれますか、現在していますか？

(どうして、そのやりたい事を、やれないのですか？)

非該当

1. 現在している 2. やればやれるが今はしていない 3. やれない（理由記入）

|    | 現在している | やればやれるが現在していない | やれない | 無回答 | 計   |
|----|--------|----------------|------|-----|-----|
| 東京 | 27     | 17             | 54   | 2   | 100 |
| 藤沢 | 24     | 11             | 65   | —   | 100 |
| 田富 | 26     | 16             | 58   | 6   | 100 |
| 平磯 | 22     | 7              | 67   | 4   | 100 |

前の質問で“ほかになにかしたい”と答えた人のうちどこでも“やろうとしてもやれない”というものが50%から60%台であり、“現在している”は20%台である。

東京についてみれば、年齢別では、“現在している”は高年齢のほうに多く、“やれない”には傾向性は見とめられない。しかし、若いものほど、“やればやれるが”という答が多い。学歴別でも、傾向がはつきりしないし、夫の職業別もはつきりした差はない。

ところで、やれない人の理由をたずねると、やれない人(180人)のうち、“多忙で暇がない”が41%、“子供が小さい、子供がいる、子供が多い”が29%、“経済的余裕がない”が18%、“体が弱い、老令、妊娠中”が11%などが主なものであり、その他の理由はまちまちであるが、全部でも約10%にすぎない。

### 37 自由になるこづかい

あなたは自分のものを買ったり、自分で自由に使えるコづカイをもっていますか？

1. もっている 2. 時々もっている 3. もっていない

|     | もっている | 時々もっている | もっていない | 無 回 答 | 計   |
|-----|-------|---------|--------|-------|-----|
| 東 京 | 46    | 13      | 40     | 1     | 100 |
| 藤 沢 | 45    | 5       | 49     | 1     | 100 |
| 田 富 | 41    | 17      | 42     | —     | 100 |
| 平 磯 | 59    | 8       | 33     | —     | 100 |

東京、藤沢、田富はほとんど同じような分布で、“もっていない”と“もっている”が40%台である。

漁村の平磯だけは“もっている”が他の地点より多く59%で、“もっていない”は33%である。

東京についてくわしくみると、年齢別では20歳台、30歳台、40歳台の間に差はないが、50歳以上では他の年齢より“もっていない”ものが多い。学歴別では高いもののほうが“もっている”ものが多い——“もっている”は小卒以下で30%、旧制中等学校以上で56%：これに対して“もっていない”はそれぞれ56%、30%である。夫の職業別では、専門・管理的職業のほうがマニュアルより“もっている”が多く、夫が事務や販売のものはその中間である。

つぎに、さきに検討をした予算をたてるか否かとの関係をみると、予算をたてているものほど、こづかいを持っているものが多い。同様に、家計簿をつけているものは、つけていないものよりも、こづかいを持っているものが多い。逆に、こづかいをもっているものは、もっていないものより、家計簿をつけているものが多い。また、家の財産状態をよく知っているもののほうが、知らないものより、こづかいをもっているものが多い。家計費の受けとり方とこづかいをもつか否かとは関係がない。

さらに、こづかいをもっているか否かが、満足度(問42)におよぼす影響をみると、“もっている”もののほうが“もっていない”ものより満足度が高い。

### 38 雑誌や本の購入

あなたは自分の読みたい雑誌や本を買うことがありますか？

1. よく買う 2. 時々買う 3. 買わない 4. その他〔記入〕

|     | よく買う | 時々買う | 買わない | そ の 他 | 不 明 | 計   |
|-----|------|------|------|-------|-----|-----|
| 東 京 | 31   | 34   | 31   | 3     | 1   | 100 |
| 藤 沢 | 28   | 30   | 37   | 5     | —   | 100 |
| 田 富 | 23   | 28   | 46   | 3     | —   | 100 |
| 平 磯 | 6    | 25   | 67   | 2     | —   | 100 |

東京と藤沢とはほとんど同じ分布で、“よく買う”、“時々買う”、“買わない”は約1/3ずつである。田富はそれより“買わない”がやや多くなる。漁村の平磯は、“よく買う”は6%にすぎず、“買わない”が67%もある。

東京についてみると、年齢別には、若いものほど“よく買う”が多く、“買わない”は少ない——“よく買う”は20歳台42%、50歳以上20%：“買わない”は20歳台15%、50歳以上約50%である。学歴別でも差ははつきりしており、学歴の高いものほど買うものが多い——“よく買う”は小学校卒以下では9%、旧中等学校卒以上で47%；“買わない”がそれぞれ62%、14%である。夫の職業別では、専門・管理的職業のほうがマニュアルより“よく買う”が多く、“買わない”は少ない。事務的や販売的な職業の夫をもつものは、その中間にある。

そうして、予算をたてるものほど、家計簿をつけているものほど、自由になるこづかいをもっているものほど、“よく買う”ものも多く、“買わない”ものが少ない。しかし、家計費の受けとり方や、家の財産を知っているか否かとは関係がない。

また、“よく買う”もののほうが、“買わない”ものより満足度(問42)が高い。

### 39 楽しみがあるか

あなたは日々の暮らしの中で心からたのしいと思うことがありますか？

1. 楽しいと思うことがある 2. 楽しいと思うことはない 3. その他〔記入〕

|     | 楽しいと思う<br>ことがある | 楽しいと思う<br>ことはない | そ の 他 | 無 回 答 | 計   |
|-----|-----------------|-----------------|-------|-------|-----|
| 東 京 | 76              | 18              | 6     | 1     | 100 |
| 藤 沢 | 69              | 28              | 3     | 1     | 100 |
| 田 富 | 82              | 16              | 2     | —     | 100 |
| 平 磯 | 52              | 39              | 7     | 2     | 100 |

東京と田富は“楽しいと思うことがある”ものが80%前後、藤沢や平磯は50~60%である。漁村の平磯では“楽しいと思うことはない”が40%に近い。

東京についてみると、年齢別では若いもののほうが“楽しいと思うことがある”というものが、多い傾向がある。学歴別では高いもののほうが、“楽しいと思うことがある”が多い傾向がある。夫の職業別では、マニュアルは“楽しいと思うことがある”が少ない。“楽しいと思うことがある”ものは、“楽しいと思うことはない”ものよりも満足度が高い。

#### 42 生活に満足しているか

- a) あなたは一口でいつて、現在の生活に満足していますか？  
b) どんな点に不満がありますか？

〔注：b は、満足なものには、不満は全くありませんか、あればどんな点ですか、ときく。〕

a 1. 満 足 2. まず満足 3. 時による 4. 不満の点がある 5. 不満

b 1. 不満全くなし 2. 不満な点〔くわしく記入〕

|     |  | 満 足 | まず満足 | 時による | 不満の点<br>がある | 不 満 | 不 明 | 計   |
|-----|--|-----|------|------|-------------|-----|-----|-----|
| 東 京 |  | 35  | 38   | 3    | 19          | 5   | —   | 100 |
| 藤 沢 |  | 38  | 30   | 3    | 15          | 8   | —   | 100 |
| 田 富 |  | 41  | 27   | 5    | 16          | 9   | 2   | 100 |
| 平 磯 |  | 33  | 36   | 2    | 21          | 7   | 1   | 100 |

この結果は、4地点ともほとんど差はみとめられず、“満足”と“まず満足”というものが約70%づつある。さらに満足と答えたものに、“不満は全くありませんか”と追求してみても、“不満な点全くなし”はどれも同じく30%台である。不満をもつものに不満な点をあげさせてみると、東京では大部分——不満のものうちの87%——が、不満な点をあげているが、他の3地点では、不満なものうち、半分しか不満な点をのべていない。その不満な点を東京でみれば、実にまちまちであるが、いちばん多いのは経済的な問題についてであり、つぎは主人についての苦情であるが、経済問題にくらべればづつと少ない。以下ひまがほしい、子供についての気づかいなどで、それ以外は全く個人的なものである。

東京について、くわしくみると、年齢別と満足度とは関係がない。学歴別も関係がない。本人の職業をみれば、“よそにつとめにゆく”ものは満足度が低い。夫の職業が専門・管理であればマニュアルのときよりも満足度が高い。

その他の主なる項目と満足度との関係をのべると、夫が家事を手伝ってくれるもののほうが（問14a）、夫婦同伴で出かけるほうが（問15）、夫の家事評価が高いほうが（問28）、日常の生活に楽しみがあるほうが（問39）満足度が高い。また、テレビ、電気洗濯機、ミキサーをもっているもの（問29）は満足度が高く、年間収入が多いものは満足度が高く（問30）、予算をたて（問33）、家の財産状態を知り（問36）、自由になるこづかいがあり（問37）、雑誌や本を買うもの（問38）のほうが満足度が高い。

そして、結婚のし方（問13）、ラジオの番組のきめ方（問16）、家計相当者が否か（問32）、家計費のうけとり方（問35）とは関係がない。

以上この項をまとめてみると、若くて、学歴が高く、夫の職業が専門・管理ないし事務の場合のほうが、積極的に自分自身の自由がきくことが、はつきりと分るのである。

### 第7項 男女の区別について

この項とつぎの第8項では、社会的態度についてみることにしよう。この項では男女の区別に関係ある項目をとりあげ、第8項では対社会的な態度を扱うことにする。ここでは、男の子と女の子へ望む学歴（問17）、男の子に家事を手伝わせるか（問18）、男女共学（問19）、男と女とくらべてどちらが楽しさが多いか、また苦しいことが多いか（問40）、女人禁制の山に女が登ることについて（問41）の5項目である。

#### 17 子供の希望学歴

- a) あなたは男の子はどのくらいまで学校に行かせたいと思いますか？

- b) では、女の子はどうですか？

〔注：なくても2問ともきくこと〕

a 男 の 子

1. 中学校まで 2. 高校まで 3. 大学まで 4. 本人次第 5. その他〔記入〕

b 女 の 子

1. 中学校まで 2. 高校まで 3. 大学まで 4. 本人次第 5. その他〔記入〕

|     |   | 中学まで | 高校まで | 大学まで | 本人次第 | そ の 他 | 計   |
|-----|---|------|------|------|------|-------|-----|
| 東 京 | 男 | 2    | 17   | 67   | 12   | 2     | 100 |
|     | 女 | 6    | 54   | 24   | 13   | 3     | 100 |
| 藤 沢 | 男 | 2    | 28   | 53   | 14   | 3     | 100 |
|     | 女 | 11   | 47   | 19   | 22   | 1     | 100 |
| 田 富 | 男 | 4    | 42   | 34   | 15   | 5     | 100 |
|     | 女 | 11   | 68   | 6    | 9    | 6     | 100 |
| 平 磯 | 男 | 18   | 46   | 25   | 10   | 1     | 100 |
|     | 女 | 33   | 52   | 9    | 5    | 1     | 100 |

すなわち、東京や藤沢では半分以上のものが男の子は大学まで行かせたいと思つていながら、女の子は大学まで行かせたいと思うものは20%たらずで、約50%の人は、女の子は高校まででよいと考えている。田富と平磯では、男の子も女の子も高校まで行かせたいと思うものが一番多いが、男の子を大学まで行かせたいと思うものは約30%近いが、女の子を大学までと考えるものは10%にみえない。どこでも男の子のほうを、女の子より高い学校まで行かせようと考えているようである。



東京についてみると、男の子と女の子に同じ学歴を望むものが44%であるが、男の子のほうを高くするというのが42%で、女の子のほうを男の子より高くというのは、ただ1人だけである。

東京についてみると、若いものほど、子供に高い学歴をつけさせたいと考えているが、男の子と女の子への希望学歴の差は、年令とは関係がない——若いからといって、男女に同じ学歴を与えたいと望んでいるようなことはない。また、本人の学歴別でも同様で、本人の学歴が高いほど子供を高い学校まで行かせたいと考えてはいるが、男女につける差は本人の学歴にかかわらない。

#### (8) 男の子に家事を手伝わせることについての可否

あなたは男の子にも、女の子と同じように炊事や洗濯などの家庭の仕事を手伝わせた方がよいと思いますか、それとも男の子にはその必要はないと思いますか？

1. 手伝わせた方がよい      2. 時と場合による      3. 手伝わせる必要はない  
4. その他〔記入〕

|    | 手伝わせた方がよい | 時と場合 | 手伝わせる必要なし | 他 | 計   |
|----|-----------|------|-----------|---|-----|
| 東京 | 56        | 15   | 26        | 3 | 100 |
| 藤沢 | 58        | 17   | 23        | 2 | 100 |
| 田富 | 40        | 22   | 36        | 2 | 100 |
| 平磯 | 46        | 11   | 37        | 6 | 100 |

男の子にも“手伝わせた方がよい”というものが“手伝わせる必要はない”より、各地とも多いが、東京、藤沢のほうが、2村より“手伝わせる”が多い。

東京について、年令別にみると、50歳以上では“手伝わせた方がよい”が少ない。学歴別にみると、学歴が高いものほど、“手伝わせた方がよい”が多い。本人や夫の職業別ではほとんど差がない。また、子供をもっているか否か別にみても差はない。

ところで、男の子には女の子より高い学歴を望むものと、同じ学歴を望むものとの間にも差はみられない。現在なにか家事を手伝ってくれる夫をもっているものと、なにも手伝ってくれない夫をもつものの間でも差はない。しかし、夫もなにか家事を手伝うべきだと思っているものと、夫はなにも手伝う必要がないというものの間では、差がみられ、“手伝わせた方がよい”は前者は65%、後者は43%である。

#### 19 男女共学についての賛否

あなたは中学校の男女共学に賛成ですか、それとも反対ですか？

1. 共学賛成      2. 共学反対      3. その他〔記入〕      4. D. K.

|    | 賛成 | 反対 | 他  | 計   |
|----|----|----|----|-----|
| 東京 | 59 | 26 | 15 | 100 |
| 藤沢 | 64 | 18 | 18 | 100 |
| 田富 | 52 | 28 | 20 | 100 |
| 平磯 | 51 | 24 | 25 | 100 |

どこでも半分以上が共学に賛成であり、反対は約20%である。

東京についてみると、年令別でははっきりした差はみられない。学歴別では学歴が高いほど“賛成”が多い。本人が仕事をしているか否かでは関係ないが、夫の職業がホワイト・カラーのときは他の職業のときより、賛成が多い。また、子供の有無とは関係がない。

そうして、共学賛成者は反対者より、満足度が高い——前者は75%、後者は69%。

#### 40 たのしさについての男女差

a) 今の日本では、人々がくらしていく上に、楽しさや苦しさが男と女で差があるでしょうか、それとも同じでしょうか、まず楽しさという点ではどうですか？

b) 苦しさという点ではどうですか？

- a. 楽しさ      1. 男の方が楽しい      2. 同じ      3. 女の方が楽しい  
b. 苦しさ      1. 男の方が苦しい      2. 同じ      3. 女の方が苦しい

| a  | 男の方が楽しい | 同じ | 女の方が楽しい | わからない | 無答 | 計   |
|----|---------|----|---------|-------|----|-----|
| 東京 | 66      | 39 | 3       | 3     | 0  | 100 |
| 藤沢 | 63      | 42 | 3       | 2     | —  | 100 |
| 田富 | 47      | 46 | 3       | 4     | —  | 100 |
| 平磯 | 63      | 40 | 3       | 4     | —  | 100 |

| b  | 男の方が苦しい | 同じ | 女の方が苦しい | わからない | 無答 | 計   |
|----|---------|----|---------|-------|----|-----|
| 東京 | 19      | 45 | 32      | 3     | 1  | 100 |
| 藤沢 | 16      | 44 | 37      | —     | 3  | 100 |
| 田富 | 18      | 47 | 30      | —     | 6  | 100 |
| 平磯 | 16      | 48 | 36      | —     | 2  | 100 |

まず楽しいほうからみると、4地点とも“男の方が楽しい”が50%に近い。“同じ”も約40%をしめているが、“女の方が楽しい”はわずか3%ずつにすぎない。

苦しいほうについては、“同じ”が45%前後で、“女のほうが苦しい”が30%台、“男のほうが苦しい”は20%弱である。

どの地点でも、男のほうが楽しく、女のほうが苦しいことになっているが、同じくらいというのも相当に多い。

東京についてみると、男女とも楽しみも苦しみも“同じ”くらいというものは全体の30%。“男の方が楽しく、女の方が苦しい”が27%、“楽しさも苦しさも男の方”というものが13%である。そうして、“楽しさも苦しさも女の方”というものと“女の方が楽しく、男の方が苦しい”というものはそれぞれ1%にすぎない。

年令別にみると、若いものほど楽しさは“男の方”が多く、“同じ”が少ない。苦しさについては年令

と関係ない。学歴別では、楽しさは学歴が高いほど“男の方”が多く、“同じ”は少ないが、苦しさはそうはいえない。本人の職業も、夫の職業別も、楽しさ、苦しさともに差はない。

そうして、男女の子供への希望学歴と、楽しさとは関係ないが、苦しさについては、“男の子には女の子によりも高い学歴を希望する”ものは、“同じ学歴を希望する”ものより、“女の方が苦しい”が少なく、“同じくらい苦しい”が多いが、これはなんとも説明ができない現象である。また、男女共学に対する賛否とは、楽しさも苦しさも関係なく、同伴で出かけるか否かとも関係がない。

楽しさについては、満足度と関係は見出せないが、苦しさについては、“男の方が苦しい”というものの満足度は一番高く（82%）、“同じ”はこれに次ぎ（74%）、“女の方が苦しい”が一番低い（63%）。

#### 41. 女人禁制の山へ登ること

奈良県の大峰山は女人禁制の山とされていますが、この山へ登った女の人があります。あなたはこの人のしたことは悪いことだと思いますか？

1. 悪いことだ      2. 悪くない      3. その他〔記入〕

|     |  | 悪いことだ | 悪くない | その他 | わからない | 無 答 | 計   |
|-----|--|-------|------|-----|-------|-----|-----|
| 東 京 |  | 23    | 58   | 13  | 6     | 0   | 100 |
| 藤 沢 |  | 29    | 62   | 9   | —     | —   | 100 |
| 田 富 |  | 39    | 45   | 5   | 9     | 2   | 100 |
| 平 磯 |  | 46    | 27   | 25  | —     | 2   | 100 |

東京と藤沢はよく似ていて、“悪くない”が半分以上であるが、それでも“悪い”が20%~30%もある。田富はこれより“悪い”ほうによつており、漁村の平磯は“悪い”というほうが多い。

東京では、年令別にみると、20歳台は“悪くない”が多い。学歴別では学歴が高いほど“悪くない”が多い。本人の職業は関係ないが、夫の職業がホワイト・カラーであると、それ以外のときより“悪くない”が多い。

そうして、男女の子供への希望学歴、男女の楽しさ、苦しさとは関係ない。

## 第8項 社会的関係

ここでは、結婚後の親と同居の可否について（問20）、親の世代と子の世代のどちらに近い（問21）家族との話しあい（問22）、公職の有無（問23）、会合への出席（問25）、役員を引きうけること（問26）の6項目をとりあげる。

#### 20. 結婚後親と同居の可否について

子供が結婚した場合、若夫婦は当然、親たちといっしょにくらすべきだと思いますか、それともでき

ることなら、別にくらすべきだと思いますか？

1. いっしょにくらすべきだ      2. 一がいにいえない      3. 別にくらすべきだ  
4. その他〔記入〕      5. D.K.

|     |  | 一<br>緒<br>に<br>く<br>ら<br>す<br>べ<br>き<br>だ | 一<br>が<br>い<br>に<br>い<br>え<br>な<br>い | 別<br>に<br>く<br>ら<br>す<br>べ<br>き<br>だ | 他 | 計   |
|-----|--|-------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|-----|
| 東 京 |  | 19                                        | 11                                   | 63                                   | 7 | 100 |
| 藤 沢 |  | 28                                        | 16                                   | 51                                   | 5 | 100 |
| 田 富 |  | 54                                        | 11                                   | 32                                   | 3 | 100 |
| 平 磯 |  | 60                                        | 11                                   | 23                                   | 6 | 100 |

都市と2村では全くちがつていて、東京、藤沢では“別居”が半分以上で、“同居”は19%~28%である。これに対して、2村では“同居”が半分で、“別居”が20%~30%台である。

東京では、年令別にみると、若いものほど“別居”が多く、“同居”が少ない——“別居”は20歳台で73%、50歳以上で50%、“同居”は20歳台14%、50歳以上35%である。学歴別では、学歴が高いほど“別居”がふえ、“同居”が減る。夫の学歴別でも同様である。本人が職業についているかどうかでは差はない。夫の職業別では、ホワイト・カラーは他より“別居”が多く、“同居”が少ない。

また、現に親と同居しているか否か別にみたときには差がないことは注目される。

#### 21 世代の相違（親と子の世代のどちらに近い）

あなたの考え方は、あなたの1代前の（親の）世代の考え方で、あなたのつぎの（子供の）

世代の考え方のどちらに近いと思いますか？

1. 1代前（親）の方に近い      2. 親と子供の中間（時と場合による）  
3. つぎの（子供の）方に近い      4. その他〔記入〕

|     |  | 1代前の方に近い | 親と子の中間 | 子供の方に近い | 他  | 計   |
|-----|--|----------|--------|---------|----|-----|
| 東 京 |  | 22       | 28     | 46      | 4  | 100 |
| 藤 沢 |  | 21       | 35     | 40      | 4  | 100 |
| 田 富 |  | 17       | 28     | 51      | 4  | 100 |
| 平 磯 |  | 25       | 26     | 39      | 10 | 100 |

どの地点でも、“子供の世代に近い考え方”というものが40%以上で、つぎは“親と子の中間”が30%前後、“親の代”は20%前後である。

東京についてみると、年令別ではシステマティックな傾向は見られない。学歴別では、学歴が高いほど“子供の方”が多く、“親の方”が少ない。

#### 22 家族との話しあい

a) あなたは家族の方たちと世の中の動きや、政治に関係のある問題などについて、話しあ

とがありますか？

b) それでは、家族内の問題、たとえば子供の教育や職業のこと、家の財産の売買のこと、家庭の将来の問題などについてはどうですか？

a 世の中の問題 1. 話し合う 2. 余り話し合わない 3. 話さない

b 家族の問題 1. 話し合う 2. 余り話し合わない 3. 話さない

a. 世の中の問題

|     |  | 話し合う | 余り話し合わない | 話さない | 計   |
|-----|--|------|----------|------|-----|
| 東 京 |  | 47   | 37       | 16   | 100 |
| 藤 沢 |  | 50   | 32       | 18   | 100 |
| 田 富 |  | 42   | 34       | 24   | 100 |
| 平 磯 |  | 32   | 32       | 36   | 100 |

b. 家族の問題

|     |  | 話し合う | 余り話し合わない | 話さない | 不 明 | 計   |
|-----|--|------|----------|------|-----|-----|
| 東 京 |  | 75   | 19       | 6    | —   | 100 |
| 藤 沢 |  | 73   | 18       | 9    | —   | 100 |
| 田 富 |  | 67   | 15       | 16   | 2   | 100 |
| 平 磯 |  | 74   | 17       | 9    | —   | 100 |

世の中の問題の方をみると、“話しあう”は東京、藤沢では約50%であるが、2村では30~40% 台である。そして“話さない”は2村は東京、藤沢より多めである。家族の問題ではどこも同じようで、“話し合う”が約70%に達している。

東京では、年齢別にみるとどちらも差はない。学歴別では、どちらの問題も、学歴が高いほど、よく話し合っている。本人の仕事はともに関係なく、夫の職業では、世の中の問題のほうは、専門・管理に話しあうものが多い。

また、世の中の問題について、話し合うものほど、家族の問題についてもよく話し合っている。

そして、世の中の問題について“話し合う”ものは、“話さない”ものより満足度が高い。

### 23. 役職の有無

あなたは現在婦人会や PTA のような団体の役員とか、民生委員や司法保護司のような役目についておいでですか？それはなんですか？

1. な し 2. あ り〔役名記入〕

|     |  | な し | あ り | 不 明 | 計   |
|-----|--|-----|-----|-----|-----|
| 東 京 |  | 83  | 17  | 0   | 100 |
| 藤 沢 |  | 87  | 13  | —   | 100 |
| 田 富 |  | 70  | 29  | 1   | 100 |
| 平 磯 |  | 94  | 6   | —   | 100 |

どこでも約80%以上が役職をもっていない。

役職の種類を東京でみると、P.T.A. 関係がだんぜん多く、役職についているもののうちの63%である。その他も大部分は婦人会、母の会、子供に関する会にかぎられており、男が多くついている役職についているものは、わずかに数人にすぎない。

東京についてみると、年齢別では40歳台がいちばん“役職あり”が多く(27%)、以下50歳台、30歳台の順で、20歳台は1人にすぎなかつた。学歴は高いものが“役職あり”が多い。本人が無職および“自分のうちでする仕事”についているものは、“役職あり”が多い。また、夫の職業が専門・管理では“役職あり”が28%もあり、事務が17%である。

そして、“役職あり”は満足度が高い。

### 25. 会 合

a) あなたは婦人会やPTAや町内会や部落の集りなどに出ることがありますか？

1. よく出る方だ 2. 時々出る 3. 出ない方だ

b) (前問で1,2の人に) 出るとは楽しみですか？

非 該 当

1. 楽しみな方だ 2. 時による 3. 楽しみでない 4. その他〔記入〕

a. 出席するか

|     |  | よく出る方だ | 時々出る | 出ない方だ | 不 明 | 計   |
|-----|--|--------|------|-------|-----|-----|
| 東 京 |  | 24     | 19   | 57    | 0   | 100 |
| 藤 沢 |  | 19     | 19   | 49    | 13  | 100 |
| 田 富 |  | 58     | 18   | 24    | —   | 100 |
| 平 磯 |  | 18     | 21   | 61    | —   | 100 |

b. 楽しみかどうか

|     |  | 楽しみな方 | 時による | 楽しみでない | 他  | 不 明 | 計        |
|-----|--|-------|------|--------|----|-----|----------|
| 東 京 |  | 57    | 21   | 12     | 9  | 1   | 100(252) |
| 藤 沢 |  | 50    | 23   | 5      | 20 | 2   | 100(44)  |
| 田 富 |  | 91    | 5    | 2      | 1  | 1   | 100(98)  |
| 平 磯 |  | 71    | 11   | 16     | —  | 2   | 100(44)  |

東京と藤沢は“出ない”が約50%である。平磯もこれに近く、“出ない”が60%ある。しかし農村の田富は“よく出る”が58%に達している。

出席するものに楽しみが否かをきくと、東京、藤沢では約半分が“楽しみ”と答えているが、田富、平磯では“楽しみ”は90%、70%に達しており、両村ではこれらの会合の内容が市部とはちがうのではないかとと思われる。

東京では、年齢別にみると、20歳台は“出ない”ものが他より非常に多いし、“楽しみでない”ものが他



の年齢より多い。学歴別にみると、高い学歴のものほど“よく出る”が多い。本人が無職および“自分のうちです仕事”の場合には“よく出る”が多い。自分のうちの店で仕事をしているものは、“楽しみ”というものが多い。夫の職業別では、ホワイト・カラーが“よく出る”が多い。しかし、事務的職業の夫をもつものは、“楽しみでない”が多い。

## 26. 役員を引うけるか

P.T.A.の役員にえらばれた2人の奥さんがあります。

甲さんは、家の仕事がおろそかになつて、夫や子供達に迷惑をかけるから、といつて断りました。乙

さんは、会のあるときは、夫や子供につごうをつけてもらえばよいといつて引受けました。あなたは

甲さんと乙さんのどちらに賛成ですか？

1. 甲に賛成(断わる)      2. 乙に賛成(引きうける)      3. その他(記入)

|     | 甲に賛成(断わる) | 乙に賛成<br>(引きうける) | そ の 他 | 不 明 | 計   |
|-----|-----------|-----------------|-------|-----|-----|
| 東 京 | 23        | 67              | 7     | 3   | 100 |
| 藤 沢 | 16        | 71              | 13    | —   | 100 |
| 田 富 | 6         | 87              | 4     | 3   | 100 |
| 平 磯 | 18        | 74              | 8     | —   | 100 |

どの地点でも“引きうける”が“断わる”よりずっと多い。しかし、東京では“断わる”も23%もある。

東京で年齢別にみると差はない。学歴は高いほど“引きうける”が多い。職業は本人、夫のいずれも関係がない。

これらの点と東京で“断わる”が多い理由とは、ただちに関係づけることはできない。

## 付 録

### 夫婦間に不和のある主婦の調査

労働省の調査がおこなわれたのと、ほぼ同じ時期の1957年8月に、最高裁判所家庭裁判所調査官研修所では、以下のような要領で、同じような調査を、夫婦間に不和のある主婦に対しておこなつた。統計数理研究所がこれに協力した関係から労働省婦人少年局は、この調査にも同じ質問を使うことを承諾した。同研修所の承諾を得て、ここにその概要をのべることにする。

## I 調査の方法

研修生の実習として調査を実施したため、完全なランダム・サンプリングではない。しかし、全国の家庭裁判所のうちの約半分の20カ所の調査官の協力をうることができた。調査の対象は、つぎのように規定した。“夫婦の間に不和が存在する離婚および内縁解消等、夫婦関係調整に関する事件について、自分自身で相談にきた主婦。ただし、1年以上にわたって夫婦が別居しているものは、のぞく”。そうして、本人が調査を受けることを承諾した対象者を各研修生が約10人ずつ調査してきたものである。さきにも述べたように、サンプリングは完全ではないが、いわゆる“うまくいつていない夫婦”の妻の実態や意見の参考になるものと考えられる。

## II 調査の結果

調査の結果を、労働省婦人少年局の調査（以下、本調査と略称する）と比較しながらみてゆくことにしよう。以下では、家庭裁判所調査官研修所の方のデータを、“不和の主婦”と略称することにする。

まず、第1に、“不和の主婦”のサンプルは市部123人、郡部34人が調査できた。すなわち、市部は全サンプルの78%をしめている。そうして、“不和の主婦”の母集団に相当するひとびとの人口構成などのデータもないので、この157人のサンプルをそのまま分析するよりしかたがない。

まず、全体を通して結論からのべておこう。

ひとくちでいうと、不和の主婦と一般の主婦との間に客観的な実態では、ほとんど差がない。ただし、夫の父母との同居は多い。財産状態などについて、主観的判断を通して尋ねると、不和の主婦はよくない状態にあるというものが多い。夫婦間の具体的な状態についての項目や、一般の社会的態度についても差はみられない。しかし、不和の主婦には女は苦しく男は楽しみが多いというものがだんぜん多い。

以上の点からみて、客観的な項目、具体的な質問については不和の主婦と一般の主婦の差は少ないが、主観が出てくる項目については差が大きいといえよう。すなわち、夫婦の間の不和というものは、客観的・表面的な実態よりは、内面的、心理的な事情との関係が深いようである。この点はさらに研究を要する問題であろう。

以下、各項目ごとにくわしくみてゆこう。

学歴（問10a\*）：“不和の主婦”の学歴構成は本調査の2市のそれとほとんど一致しており、郡部のそれより高い。（小学校以下15%、中学40%、高校35%、大学6%）

職業（問4）：“なにもしていない”ものは、32%で、2市の約70%より少ない。そうして、“よそへつとめに行く”（20%）、“自分のうちの店”（31%）が、2市より非常に多く、“自分のうち”は14%で、2市とはほぼ同じである。すなわち、“不和の主婦”は働らいているものが多いが、これは不和の結果働らいているのか、働らくこと、あるいは働らいていなければならないことが不和の原因であるのか、これだけでは分からない。

\* 労働省の調査票の質問番号

同居家族（問3）：本人の父や母との同居は5%ずつ、夫の兄弟とも4%で、本調査とかわりない。しかし、夫の父との同居は24%で、本調査のどの地点より多い。夫の母との同居も32%で、2市よりも多い。すなわち、本調査でみたとき、夫の父や母との同居者とそうでないものとの間の、満足度に差はなかつたが、“不和の主婦”の約半分は夫の父や母と同居している場合におこっていることは、注目すべきことであらう。

夫の職業（問11）：事務16%、職人・工員16%、専門・管理14%、販売14%、農林漁13%が主であつて、2市と郡部の職業分布の中間的であり、これだけからはなんともいえない。

夫の学歴（問12）：小学18%、高小37%、旧制中学27%、大学14%で、やはり2市と郡部の中間的であり、これだけからはなんともいえない。

結婚方法（問13）：恋愛は30%、見合61%で本調査にくらべると、やや恋愛の%が多めであるが、はつきりしたことはいえない。

夫の手伝う家事（問14）：床の上げ下げ13%、掃除10%、食事のあと片づけ11%、洗濯6%で、これも本調査とあまりかわりがない。ただ、掃除を手伝うものは、本調査の2市より少ない。

夫が手伝うべき家事（問14）：なにも手伝う必要がないは51%、床の上げ下げ22%、掃除12%などで、本調査との差はみられない。

同伴ででかけるか（問15）：これは、不和のおこる前はどうかを尋ねた——答はかならずしも、客観的に不和の起る前ではないかもしれない。以下同様——。この結果は、よく行つた12%、時に行つた35%、めつたに行かなかつた34%、全く行かなかつた19%である。これも本調査とそれほど大きな差はない。

夫が家事を認めるか（問28）：十分にみとめるは15%、大体みとめる20%、時と場合による11%、余りみとめない36%、全くみとめない16%で、本調査より夫の理解は低いというものが、だんぜん多い。

収入（問30）：20万円以下32%、20~30万円24%、30~50万円21%、50万円以上16%で2市よりやや低めである。

くらしむき（問31）：こまらない36%、なんとかやつている27%、苦しい・非常に苦しい37%で、苦しいといっているものが本調査より多い。

家計を扱っている人（問32）：本人は63%、本人以外が37%で、本人以外が本調査より多い。

家計簿をつけているか（問34）：つけている29%、つけたりつけなかつたり21%、全くつけない38%で、つけているものが、本調査の2市よりは少ない。

財産（問36）：よく知つている51%、余り知らない29%、全く知らない20%で、知らないというものが本調査より多い。

とづかいがあるか（問37）：持つている31%、時には持つている19%、持たない50%で、持つているものは本調査より少ない。

集りへの出席（問25a）、集りは楽しみか（問25b）、希望学歴（問10b）などは、ほとんど差がない。

くらしにこまらぬ女がつとめに出ること（問8）：賛成56%、いまいちはいえない16%、反対24%で

これも本調査と差がない。

若夫婦の同居（問20）：同居すべきだ23%、いまいちはいえない20%、別居すべきだ54%、となつてゐる。これは“不和の主婦”には夫の父・母と同居しているものが多いことを考えると、本調査との差は、決して大きいものとは考えられない。

家事だけで満足か（問27）：満足36%、ほかにしたい61%で、本調査と差がない。

男と女とどちらが楽しいか（問40a）：男が楽しい76%、同じ18%で、男が楽しいというものは本調査よりだんぜん多い。

男と女とどちらが苦しいか（問40b）：男が苦しい8%、同じ23%、女が苦しい66%で、女が苦しいは本調査より多く、同じ位、男が苦しいは本調査より少ない。



## 主婦の家庭生活実態調査

調 査 票

労働省婦人少年局

地 点 番 号

サンプル番号

サ プ ル 名

調 査 員

調 査 日

### 〔はじめの挨拶の要領〕

わたくしは労働省婦人少年局からまいりました調査員です。ただいま婦人少年局では、主婦の家庭生活についての調査を二・三の町や村でおこなっております。この町（村）の主婦の中からクジ引きのような方法でえらびましたところ、あなたがその一人に当たりましたので、今日はあなたのところへおうかがいしました。

この調査は婦人少年局が主婦のくらし方や考え方の傾向を知つて仕事上の参考にするために行うものです。したがつて税務署や警察などとは何の関係もありません。また、結果はすべて統計表の形で整理いたしますので、あなたのお名前が外部に出たり、あなたのお答が他人にもれたりするようなことは絶対にありません。おいそがしいところをお邪魔したいへん恐縮ですが、しばらくの間お願いいたします。

問 1. あなたは世帯主のなににあたりますか？

|            |         |
|------------|---------|
| 1. 妻       | 2. 長男の妻 |
| 3. その他（記入） |         |

問 2. あなたのおうまれは、いつですか？

明治、大正、昭和  年  月  日

問 3. a) あなたのお父さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いっしょにいらしていらっしゃいますか？

b) あなたのお母さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いっしょにいらしていらっしゃいますか？

c) あなたの御主人のお父さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いっしょにいらしていらっしゃいますか？

d) あなたの御主人のお母さんは御存命ですか（御丈夫ですか）？ いっしょにいらしていらっしゃいますか？

e) あなたの御主人にお兄さん、お兄さんのお嫁さん、あるいはお姉さんや、お姉さんのお婿さんがいますか？ そのうちいっしょにいらしている方がいますか？

f) あなたの御主人に弟さんや妹さんがいますか？ そのうちいっしょにいらしている方がいますか？

g) その他、あなたより年上の方でいっしょにいらしている方がいますか？ その方はあなたの何にあたりますか？

h) お子さんはおありですか？

|          |               |         |          |
|----------|---------------|---------|----------|
| a) 本人の父  | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| b) 本人の母  | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| c) 夫の父   | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| d) 夫の母   | 1. 死亡         | 2. 存命別居 | 3. 存命同居  |
| e) 夫の兄姉  | 1. なし         | 2. 全部別居 | 3. 同居者あり |
| f) 夫の弟妹  | 1. なし         | 2. 全部別居 | 3. 同居者あり |
| g) 他の同居者 | [本人の何に当るかを記入] |         |          |
| h) 子供    | 1. あり         | 2. なし   |          |

問 4. a) あなたは現在家事のほか何か仕事をもつておいでですか、どんな仕事ですか  
(内職を含みます)?

[注: 団体役員等の名誉職は含まない]

b) あなたは、その仕事をどこでなさいますか?

|                |                                                                    |
|----------------|--------------------------------------------------------------------|
| a              | 0. 家事以外の仕事は何もしていない                                                 |
|                | 1. 専門的技術的職業 (高級技術員、教員、医師、看護婦、司法、芸術家など専門的知識や高等教育又はそれに準ずる免許を必要とするもの) |
|                | 2. 管理的職業 (社長、重役、高級公務員、課長級以上の人で、自らは事務、販売、作業ばかりに従事しないで人を使つて仕事をするもの)  |
|                | 3. 事務従事者 (平事務員、タイピスト、デパート店員、車掌、駅員などで、管理指揮などの責任をもたない事務従事者)          |
|                | 4. 小店主 (自らも店先き、仕事場に出るもの、理髪師)                                       |
|                | 5. 店員 (小売店、卸売店など小企業の店員に限る、家族従業を含む)                                 |
|                | 6. 農 業                                                             |
|                | 7. 林 業                                                             |
|                | 8. 漁 業                                                             |
|                | 9. 職人及び工員 (裁縫、はな作り、袋作り、運転手を含む)                                     |
|                | 10. 単純労働者 (小使、工夫、家政婦など特別の訓練のいらない反復的な性質の筋肉労働者)                      |
|                | 11. その他 [記入]                                                       |
| 12. 家の商売の手伝い程度 |                                                                    |
| b              | 0. 非該当 (aが0, 12の場合)                                                |
|                | 1. よそへつとめに行く                                                       |
|                | 2. 自分のうちの店 (家族従業者を含む)                                              |
|                | 3. 自分のうちです (内職など)                                                  |

問 5. あなたは結婚前に何か職についたことがありますか? それはいまと同じ職業ですか?

1. 結婚前も現在も無職
2. 結婚前は無職で今は職業をもっている
3. 現在と同じ職業
4. 現在とちがう職業
5. 結婚前は職業をもっていたが、今は無職

問 6. [前問の答が5のものにだけきく]

なぜその職業をやめたのですか?

非 該 当

1. 結婚したから
2. 子供ができたから
3. 病気になつたから
4. 年をとつたから
5. 経済的に寒になつたから
6. その他 [記入]

問 7. [現在無職のものにきく]

あなたは何か仕事をしてみたいと思いませんか? それはどのような仕事ですか?

非 該 当

1. 仕事をしたいと思わない
2. 仕事をしたい (したい仕事を記入)



問 8. とくべつ暮らしに困らなければ、女は勤めに出るよりは家庭の仕事をしている方がよい  
という意見がありますが、あなたはこのことをどう思いますか？

1. 賛 成 (家の仕事をする方がよい)
2. 一がいにいえない
3. 反 対 (女も外で働いた方がよい)
4. その他 [記入]
5. D. K.

問 9. 女の人の中には、子供が生れてからでも職業をつづけたいという人がありますが、事  
情がゆるせば、そうした方がよいと思いますか、それとも子供が生れた以上は職業は  
やめるべきだと思いますか？

1. 続けた方がよい
2. 場合による
3. やめた方がよい
4. その他 [記入]
5. D. K.

問 10 a) 学歴のことをうかがいますが、あなたが最後に行かれた学校はどこですか？

- |              |                      |                            |
|--------------|----------------------|----------------------------|
| 1. 学歴なし      | 2. 小 学               | 3. 高 小                     |
| 4. 新制中       | 5. 旧制中               | 6. 新制高                     |
| 7. 旧制高専、短大   | 8. 新制大               | 9. 旧制大                     |
| 10. その他 [校名] | <input type="text"/> | 通算 <input type="text"/> 学年 |

b) [前問の答が1~7のものにだけきく]

あなたはもつと上の学校へ行きたかったとお考えですか、それともあなたの学歴で十  
分だとお考えですか？

[もつと上の学校へ行きたかったと答えたものだけにきく]

では、どのくらいの学校まで行けばよかつたと思いますか？

非 就 当

1. 自分の学歴で十分だ
2. 十分ではないが仕方ない
3. もつと上の学校へ行けばよかつた——高小、新制中まで
4. もつと上の学校へ行けばよかつた——旧制中、新制高まで
5. もつと上の学校へ行けばよかつた——旧制高専、短大まで
6. もつと上の学校へ行けばよかつた——大学まで
7. その他 [記入]

問 11. あなたの御主人の職業は何ですか？

[注：各職業の詳解は 問4a と同じ]

- |          |             |              |
|----------|-------------|--------------|
| 0. 無 職   | 1. 専門的技術的職業 | 2. 管理的職業     |
| 3. 事務従事者 | 4. 小 店 主    | 5. 店 員       |
| 6. 農 業   | 7. 漁 業      | 8. 職人及び工員    |
| 9. 単純労働者 | 10. 単純労働者   | 11. その他 [記入] |

問 12. あなたの御主人が最後に行かれた学校はどこですか？

|             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. 学歴なし     | 2. 小 学   | 3. 高 小   |
| 4. 新 制 中    | 5. 旧 制 中 | 6. 新 制 高 |
| 7. 旧制高専 短大  | 8. 新 制 大 | 9. 旧 制 大 |
| 10. その他【校名】 |          | 通算 学年    |

問 13. あなたの結婚は、見合結婚ですか、恋愛結婚ですか？

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 恋愛結婚（自分でえらんだ人と結婚した）           |
| 2. 見合結婚（他の人がすすめてくれ、のち気に入つた場合を含む） |
| 3. その他【記入】                       |

問 14. a) あなたの御主人は次のことを手伝ってくれますか？【ひとつひとつ質問し、いくつでも○をつけること】

b) ではこのうち、男も手伝うべきだと思うものがありますか？（それはなんですか？）

|             |               |          |
|-------------|---------------|----------|
| 現<br>在      | 1. 床の上げ下し     | 2. 室内の掃除 |
|             | 3. 食事の後片づけや炊事 | 4. 洗 濯   |
| べ<br>き<br>だ | 0. どれも手伝う必要なし |          |
|             | 1. 床の上げ下し     | 2. 室内の掃除 |
|             | 3. 食事の後片づけや炊事 | 4. 洗 濯   |

問 15. あなたは御主人といつしよに映画を見に行つたり、どこかへあそびに行つたりしますか？

|             |           |
|-------------|-----------|
| 1. よく行く     | 2. 時々行く   |
| 3. めつたに行かない | 4. 全く行かない |

問 16. ご主人が聞きたいラジオの番組とあなたの聞きたい番組とがちがうときに、どちらをかけますか？

|                             |
|-----------------------------|
| 1. 主人の番組をかけることが多い           |
| 2. 主人と自分の番組を半々位かける（時と場合による） |
| 3. 自分(妻)の番組をかけることが多い        |
| 4. その他【記入】                  |

問 17. a) あなたは男の子はどのくらいまで学校に行かせたいと思いますか？

b) では、女の子はどうですか？

【注：なくても2問ともきくこと】

|       |          |            |         |
|-------|----------|------------|---------|
| a 男の子 | 1. 中学校まで | 2. 高校まで    | 3. 大学まで |
|       | 4. 本人次第  | 5. その他【記入】 |         |
| b 女の子 | 1. 中学校まで | 2. 高校まで    | 3. 大学まで |
|       | 4. 本人次第  | 5. その他【記入】 |         |

問 18. あなたは男の子にも、女の子と同じように炊事や洗濯などの家庭の仕事を手伝わせた方がよいと思いますか、それとも男の子にはその必要はないと思いますか？

|               |            |
|---------------|------------|
| 1. 手伝わせた方がよい  | 2. 時と場合による |
| 3. 手伝わせる必要はない | 4. その他【記入】 |

問 19. あなたは中学校の男女共学に賛成ですか、それとも反対ですか？

|            |          |
|------------|----------|
| 1. 共学賛成    | 2. 共学反対  |
| 3. その他【記入】 | 4. D. K. |

問 20. 子供が結婚した場合、若夫婦は当然、親たちといつしよにくらすべきだと思いますか、それともできることなら、別にくらすべきだと思いますか？

1. いつしよにくらすべきだ
2. 一かいいえない
3. 別にくらすべきだ
4. その他〔記入〕
5. DK.

問 21. あなたの考え方は、あなたの1代前の(親の)世代の考え方と、あなたのつぎの(子供の)世代の考え方のどちらに近いと思いますか？

1. 1代前(親)の方に近い
2. 親と子供の中間(時と場合による)
3. つぎの(子供の)方に近い
4. その他〔記入〕

問 22. a) あなたは家族の方たちと世の中の動きや、政治に関係のある問題などについて、話合うことがありますか？

b) それでは、家族内の問題、たとえば子供の教育や職業のこと、家の財産の売買のこと、家庭の将来の問題などについてはどうですか？

|          |         |             |         |
|----------|---------|-------------|---------|
| a 世の中の問題 | 1. 話し合う | 2. 余り話し合わない | 3. 話さない |
| b 家族の問題  | 1. 話し合う | 2. 余り話し合わない | 3. 話さない |

問 23. あなたは現在婦人会やPTAのような団体の役員とか、民生委員や司法保護司のような役目についておいでですか？ それはなんですか？

1. なし
2. あり〔役名記入〕

問 24. あなたは何がおけいこ事をしたり、勉強したりしていますか？ それはなんですか？

1. していない
2. している〔その種類くわしく〕

問 25. a) あなたは婦人会やPTAや町内会や部落の祭りなどに出ることがありますか？

1. よく出る方だ
2. 時々出る
3. 出ない方だ

b) (前問で1, 2の人に) 出るとは楽しみですか？

非 関 当

1. 楽しみな方だ
2. 時による
3. 楽しみでない
4. その他〔記入〕

問 26. PTAの役員にえらばれた2人の奥さんがあるとします。

甲さんは、家の仕事がおろそかになつて、夫や子供達に迷惑をかけるから、といつて断りました。乙さんは、会のあるときは、夫や子供につどうをつけてもらえばよいといつて引受けました。あなたは甲さんと乙さんのどちらに賛成ですか？

1. 甲に賛成(断わる)
2. 乙に賛成(引き受ける)
3. その他〔記入〕



問 27. a) 炊事や洗濯、子供の世話などといった家庭の仕事は一家にとって大切な事ですが、あなたはこういう家事だけをしてくらすことに満足しますか、それとも何かほかにしたいと思いますか？

1. 家事だけで満足
2. ほかに何かしたい (どんな事をしたいか)
3. その他 [記入]

b) [ほかに何かしたい人に] あなたはそのやりたい事をやれますか、現在していますか？  
(どうして、そのやりたい事を、やれないのですか？)

非 該 当

1. 現在している
2. やればやれるが今はしていない
3. やれない [理由記入]

問 28. あなたの御主人は、あなたの家事仕事の価値を、十分みとめてくれていますか？

1. 十分みとめてくれる
2. 大体みとめてくれる
3. 時と場合による
4. 余りみとめてくれない
5. 全くみとめてくれない

問 29. [リスト] あなたの家には、次のもののうちどれがありますか？ [あるものはいくつでも○でかこむこと]

1. 電気アイロン
2. ミシン
3. ラジオ
4. テレビ
5. 電気洗濯機
6. セキサー

問 30. [リスト] あなたの世帯全部では、だいたい1年間の収入はどのくらいになりますか？

[注 1: 使用人、同居人の収入はのぞく]

[注 2: 本人が使用人、同居人の場合には非該当とする]

非 該 当

0. (イ) な し
1. (ロ) 5万円以下
2. (ハ) 5万円から 10万円
3. (ニ) 10万円から 15万円
4. (ホ) 15万円から 20万円
5. (ヘ) 20万円から 30万円
6. (ト) 30万円から 50万円
7. (チ) 50万円から 70万円
8. (リ) 70万円から100万円
9. (ク) 100万円から150万円
10. (ケ) 150万円以上

問 31. あなたの家のくらしむきはいかがですか？

1. 困らない
2. 何とかやっている
3. 苦しい
4. 非常に苦しい

問 32. お宅では家計をやっているのはどなたですか (そのかたはあなたの何にあたりますか)？

[注: 家計をやるとは、オカズを買うときお金を出すサイフはだれがもっているかというような事]

1. 本人 (妻)
2. 夫
3. 夫の母
4. 本人の母
5. 夫の父
6. その他 [本人の何に当たるかを記入]

問 33. あなたのお宅では、月々予算を立ててやっていますか？

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. 予算を立てている  | 2. 予算を立てたり立てなかったり |
| 3. 全く予算を立てない | 4. その他【記入】        |

問 34. あなたのお宅では、家計簿をつけていますか？

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. つけている        | 2. 主なものだけつけている |
| 3. つけたり、つけなかったり | 4. 全くつけていない    |
| 5. その他【記入】      |                |

問 35. お宅では家計費はどのようにしてうけとりますか？

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 収入全部をうけとる（妻と相談してきめた額を差し引くものを含む） |
| 2. 一定額の家計費をうけとる                    |
| 3. 主人が勝手に一部を差し引いたのこりをうけとる          |
| 4. 必要のつどうけとる                       |
| 5. その他【記入】                         |

問 36. あなたは家の財産状態（貯金、保険などを含む）をよく御存知ですか？

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. よく知っている | 2. 余り知らない |
| 3. 全く知らない  |           |

問 37. あなたは自分のものを買ったり、自分で自由に使えるコブカイをもっていますか？

- |          |            |           |
|----------|------------|-----------|
| 1. もっている | 2. 時々もっている | 3. もっていない |
|----------|------------|-----------|

問 38. あなたは自分の読みたい雑誌や本を買うことがありますか？

- |            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 1. よく買う    | 2. 時々買う | 3. 買わない |
| 4. その他【記入】 |         |         |

問 39. あなたは日々のくらしの中で心からたのしいと思うことがありますか？

- |                |
|----------------|
| 1. 楽しいと思うことがある |
| 2. 楽しいと思うことはない |
| 3. その他【記入】     |

問 40. a) 今の日本では、人々がくらししていく上に、楽しさや苦しさが男と女で差があるでしょう。それとも同じでしょうか、まず楽しさという点ではどうですか？

b) 苦しさという点ではどうですか？

|       |            |       |            |
|-------|------------|-------|------------|
| a 楽しさ | 1. 男の方が楽しい | 2. 同じ | 3. 女の方が楽しい |
| b 苦しさ | 1. 男の方が苦しい | 2. 同じ | 3. 女の方が苦しい |

問 41. 奈良県の大塚山は女人禁制の山とされていますが、この山へ登った女の人があります。あなたはこの人のしたことは悪いことだと思えますか？

- |            |         |
|------------|---------|
| 1. 悪いことだ   | 2. 悪くない |
| 3. その他【記入】 |         |

問 42. a) あなたは一口でいつて、現在の生活に満足していますか？

b) どんな点に不満がありますか？

[注: aは、満足なものには、不満は全くありませんか、あればどんな点ですか、ときく。]

|   |                                                            |
|---|------------------------------------------------------------|
| a | 1. 満 足<br>2. ま ず 満 足<br>3. 時 に よ る<br>4. 不満の点がある<br>5. 不 満 |
| b | 1. 不満足なし<br>2. 不満な点【くわしく記入】                                |

---

主婦の生活と意見

——実態調査結果報告——

昭和33年1月15日 印刷

昭和33年1月20日 発行

発行者 東京都千代田区大手町一ノ七番地  
労働省婦人少年局

印刷者 東京都中央区浜町三丁目十番地  
文 幸 堂 印 刷 所

---

